

---

## 第7章 介護支援専門員（ケアマネジャー）

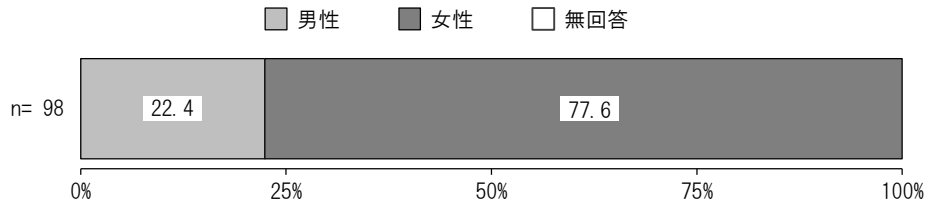
---



## 1 回答者属性

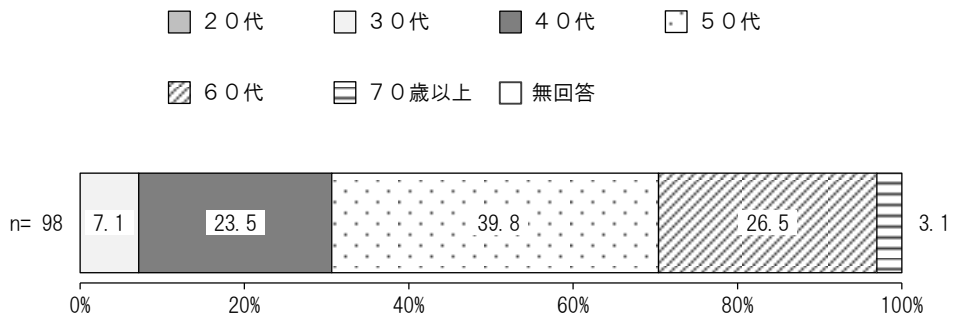
問1 あなたの性別をおたずねします。（1つに○）

「男性」が22.4%、「女性」が77.6%となっています。



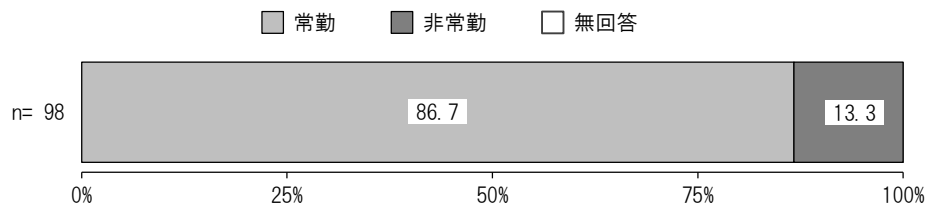
問2 あなたの令和元年11月1日現在の年齢をお答えください。

「50代」が39.8%と最も高く、次いで「60代」が26.5%、「40代」が23.5%となっています。回答者の中に「20代」はいませんでした。



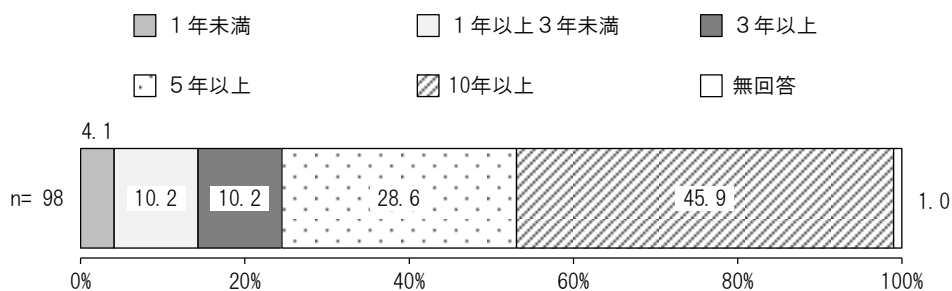
問3 あなたの勤務形態をお答えください。（1つに○）

「常勤」が86.7%、「非常勤」が13.3%となっています。



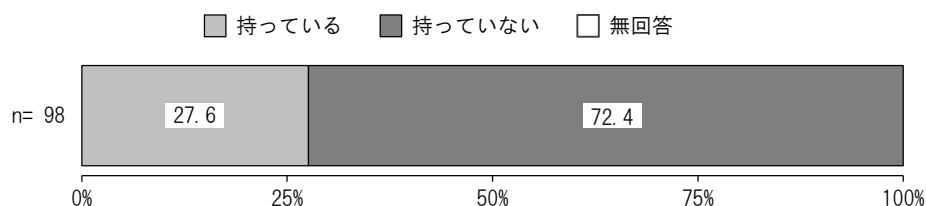
問4 あなたは、令和元年11月1日現在、ケアマネジャー業務に従事してどのくらいの経験がありますか。転職などを行っている場合は、前職なども含めた合計期間でお答えください。(1つに○)

「10年以上」が45.9%と最も高く、次いで「5年以上」が28.6%、「3年以上」と「1年以上3年未満」が10.2%となっています。



問5 あなたは、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）の資格をお持ちですか。(1つに○)

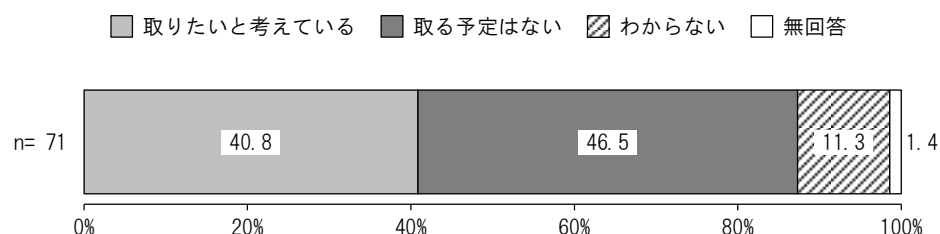
「持っている」が27.6%、「持っていない」が72.4%となっています。



問5で「2. 持っていない」と回答した方にうかがいます。

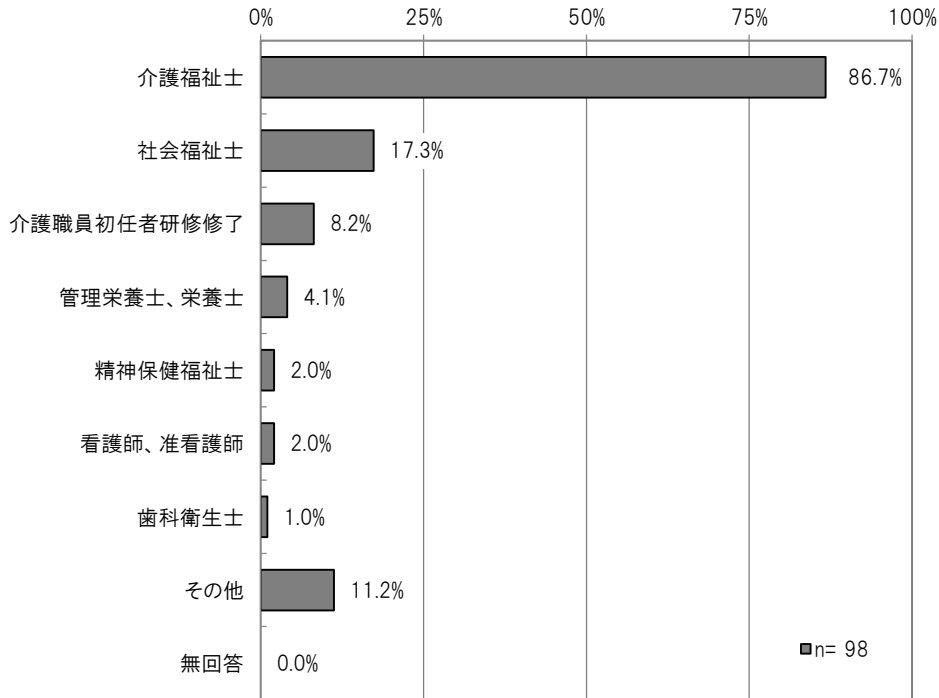
問6 今後、主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）の資格を取る予定はありますか。(1つに○)

「取りたいと考えている」が40.8%、「取る予定はない」が46.5%となっています。



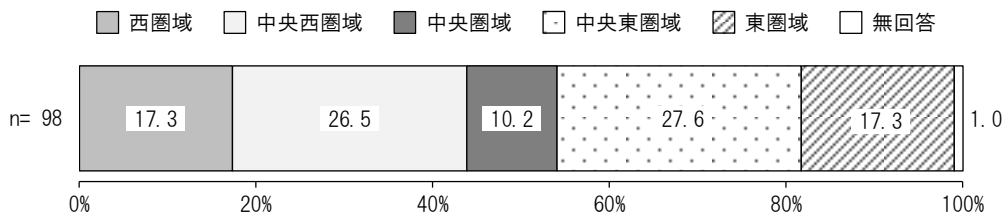
問7 あなたは、介護支援専門員（ケアマネジャー）（以下「ケアマネジャー」）以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。（〇はいくつでも）

「介護福祉士」が86.7%と最も高くなっています。



問8 あなたが所属している事業所の所在地はどこですか。（1つに〇）

「中央東圏域」が27.6%と最も高く、次いで「中央西圏域」が26.5%、「西圏域」と「東圏域」が17.3%、「中央圏域」が10.2%となっています。

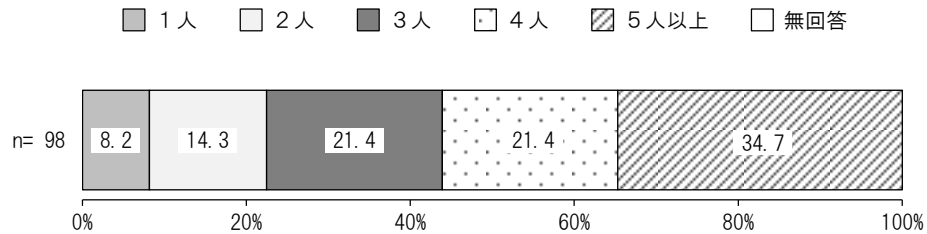


◆ 小平市の日常生活圏域

日常生活圏域	町 丁 名
西圏域	中島町、上水新町、たかの台、小川町1丁目、栄町、上水本町1丁目、津田町1丁目
中央西圏域	小川西町、小川東町1～5丁目、上水本町2～6丁目、津田町2～3丁目、学園西町
中央圏域	小川町2丁目、小川東町（西武多摩湖線より東側）、学園東町1丁目
中央東圏域	上水南町、喜平町、学園東町（1丁目を除く）、仲町、美園町、大沼町
東圏域	回田町、御幸町、鈴木町、天神町、花小金井南町、花小金井

問9 あなたが所属している事業所には、あなた自身も含めて介護支援専門員が何人いますか。(1つに○)

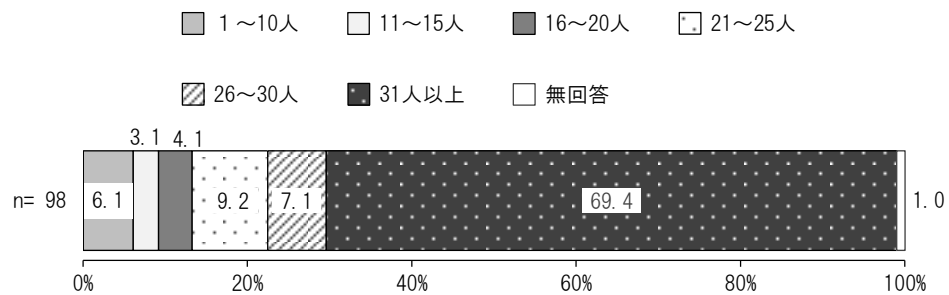
「5人以上」が34.7%と最も高く、次いで「3人」と「4人」が21.4%、「2人」が14.3%、「1人」が8.2%となっています。



問10 令和元年10月31日現在で、あなたが担当している利用者数は何人ですか。要介護度別の人数を記入してください。(一時的入院中などを含め、継続的に関わっている利用者数を記入してください。)

【要支援1～要介護5までの合計】

「31人以上」が69.4%と最も高く、次いで「21～25人」が9.2%、「26～30人」が7.1%となっています。

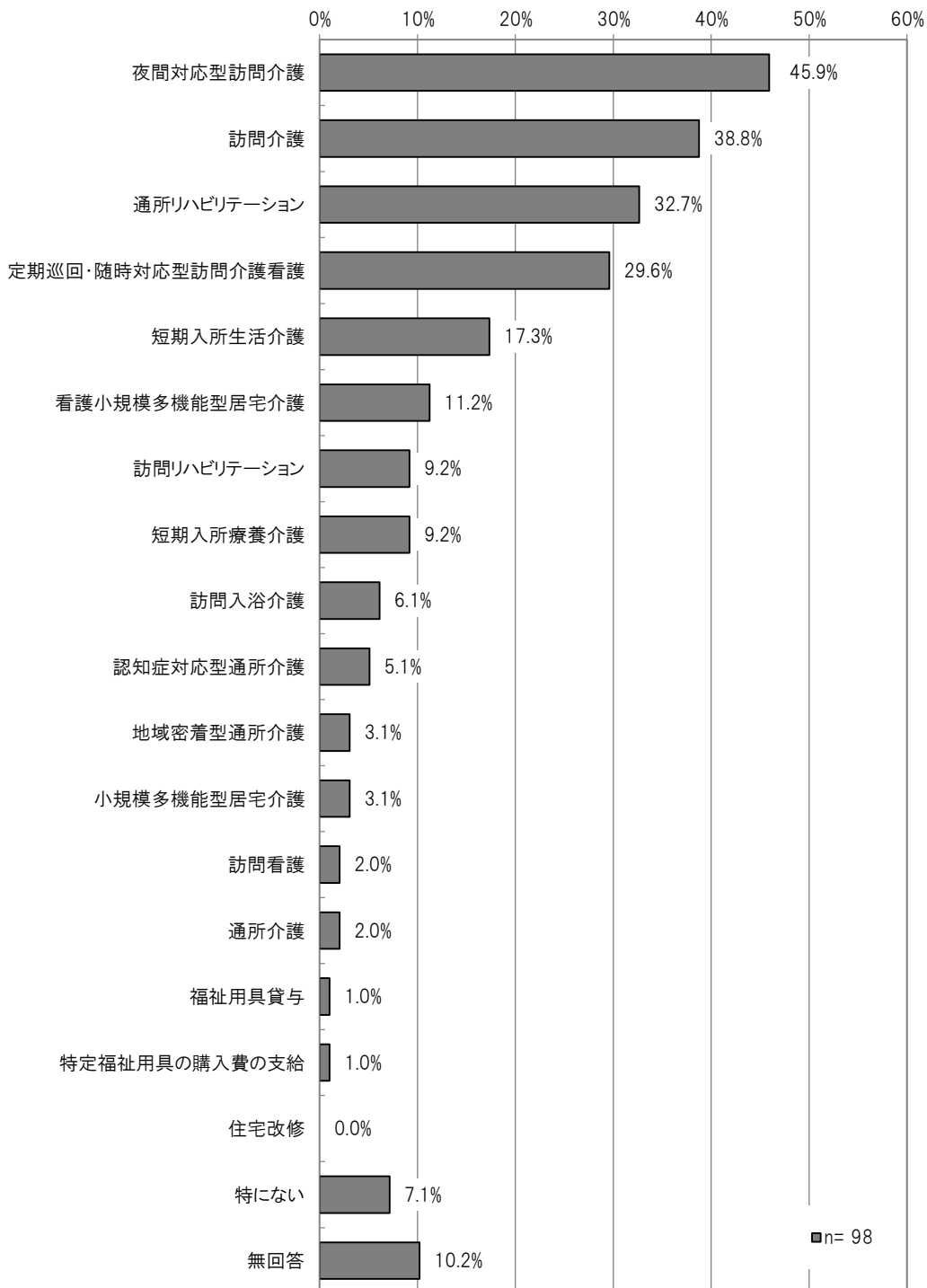


2 サービスの状況について

問11 ケアプランを作成する中で、事業所数や定員など量的に不足していると感じるサービス、人手が不足していると感じるサービス、また、ケアプランに組み入れにくいサービスはありますか。下記の介護保険居宅サービスから3つまで選んで番号を記入してください。

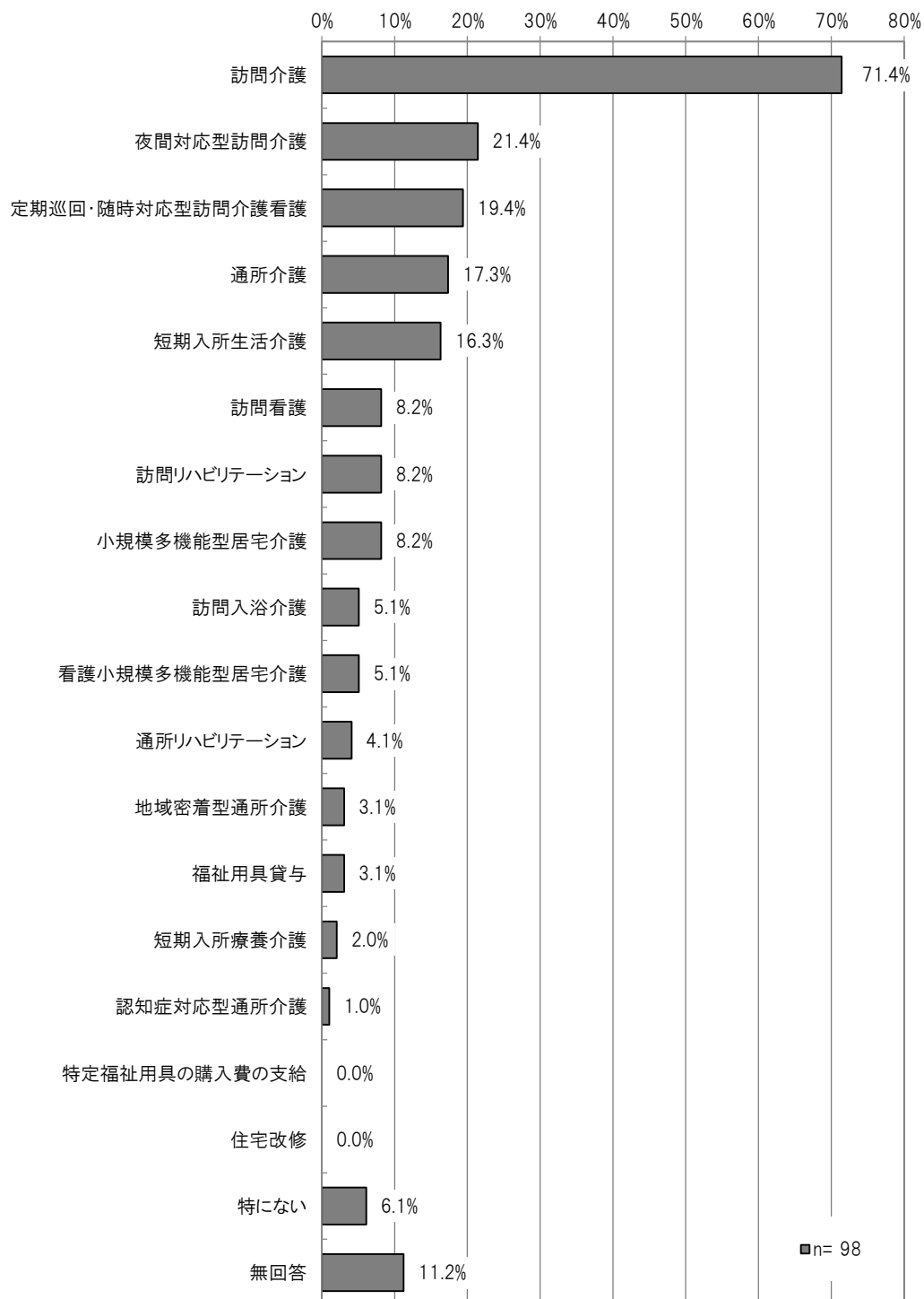
(1) 事業所数や定員など量的に不足していると感じるサービス（3つまで選択）

「夜間対応型訪問介護」が45.9%と最も高く、次いで「訪問介護」が38.8%、「通所リハビリテーション」が32.7%となっています。



## (2) 人手が不足していると感じるサービス（3つまで選択）

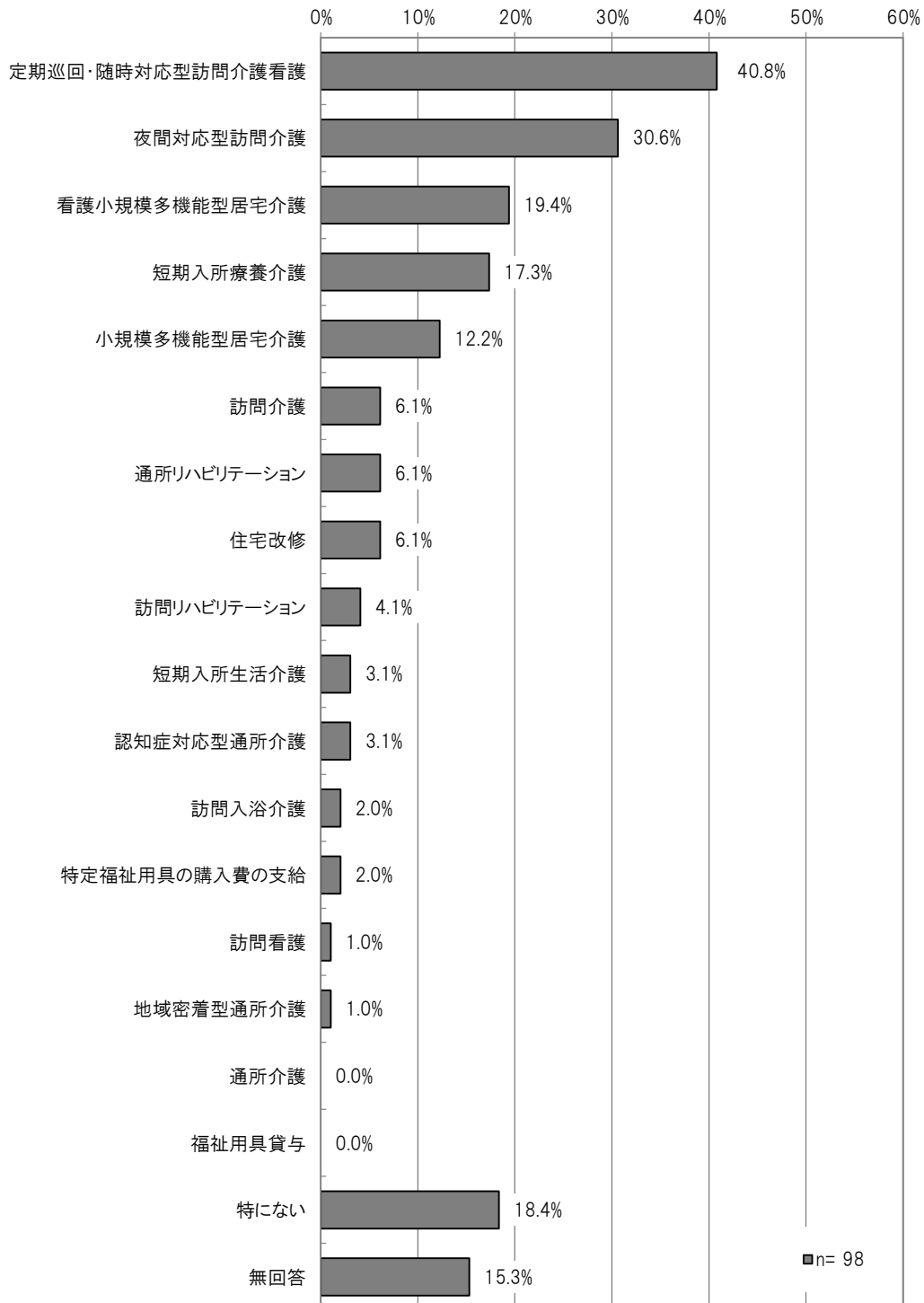
「訪問介護」が71.4%と最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」が21.4%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が19.4%となっています。





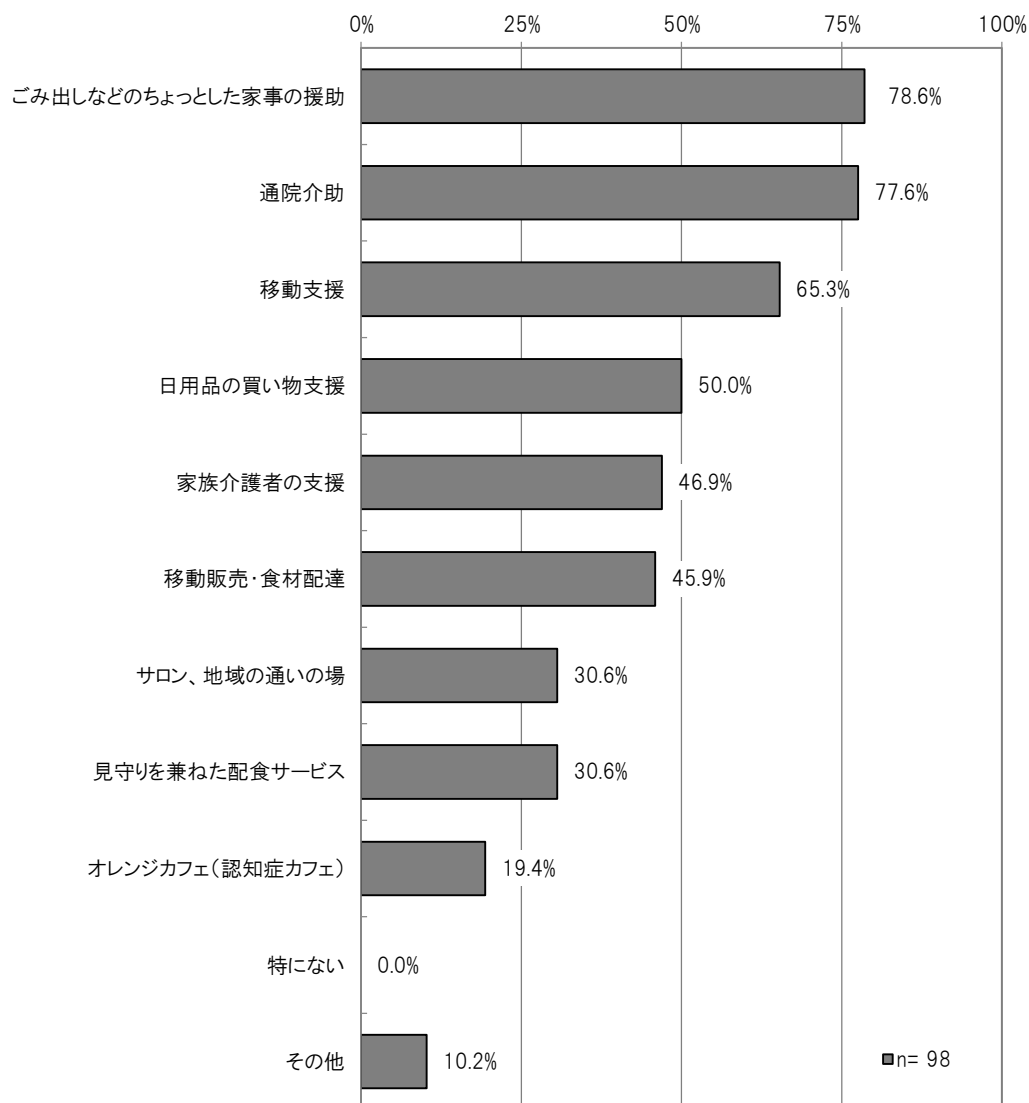
（3）ケアプランに組み入れにくいサービス（3つまで選択）

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が40.8%と最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」が30.6%、「看護小規模多機能型居宅介護」が19.4%となっています。



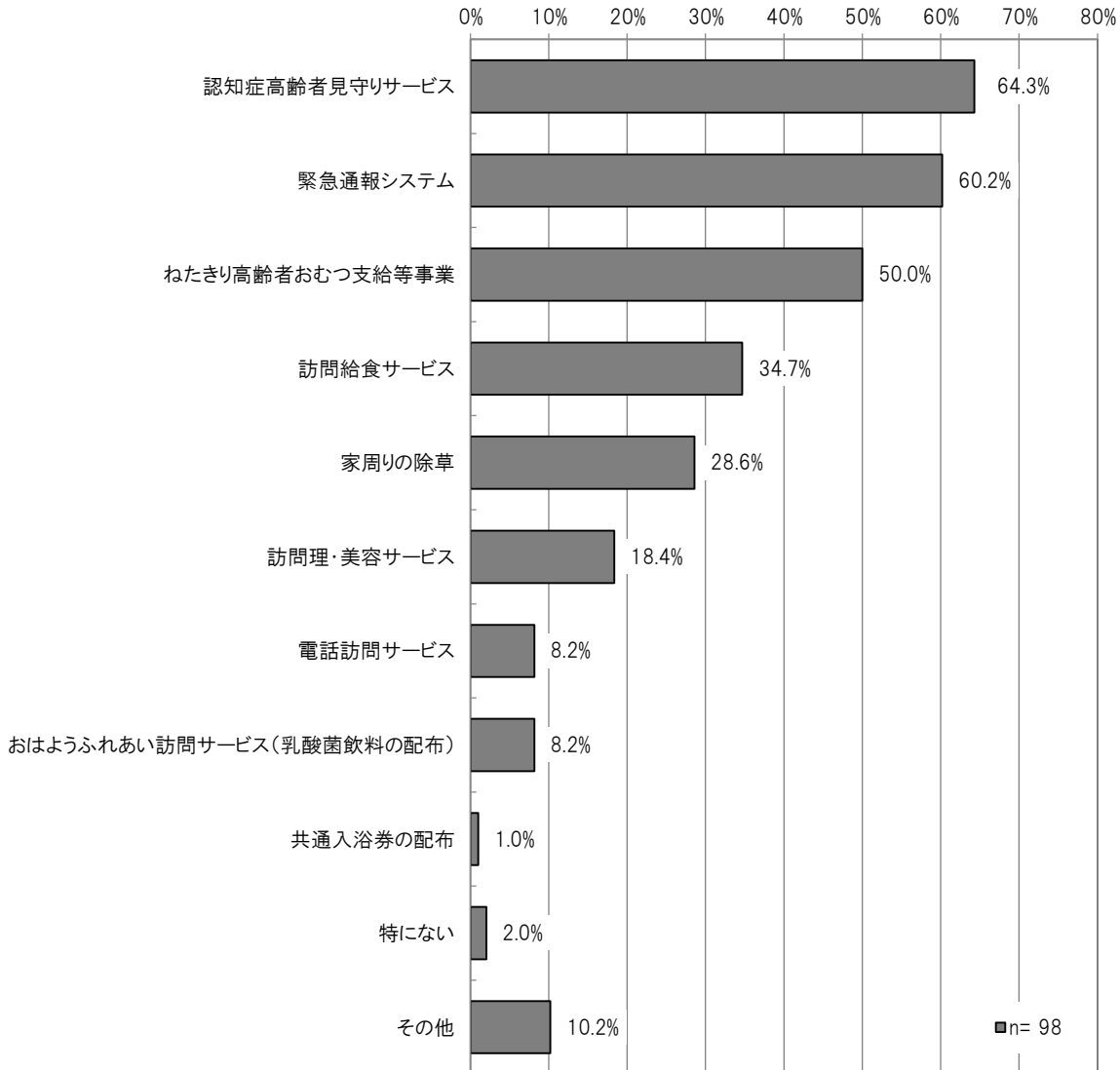
問12 インフォーマル（制度化されていない）サービスも含めた支援策についてうかがいます。在宅生活を支えるために、今後充実が必要と感じる生活支援は次のどれですか。（〇はいくつでも）

「ごみ出しなどのちょっとした家事の援助」が78.6%と最も高く、次いで「通院介助」が77.6%、「移動支援」が65.3%となっています。



問13 現在、小平市では以下のような高齢者保健福祉サービスを実施していますが、今後一層の充実が必要と思うサービスは次のどれですか。（〇はいくつでも）

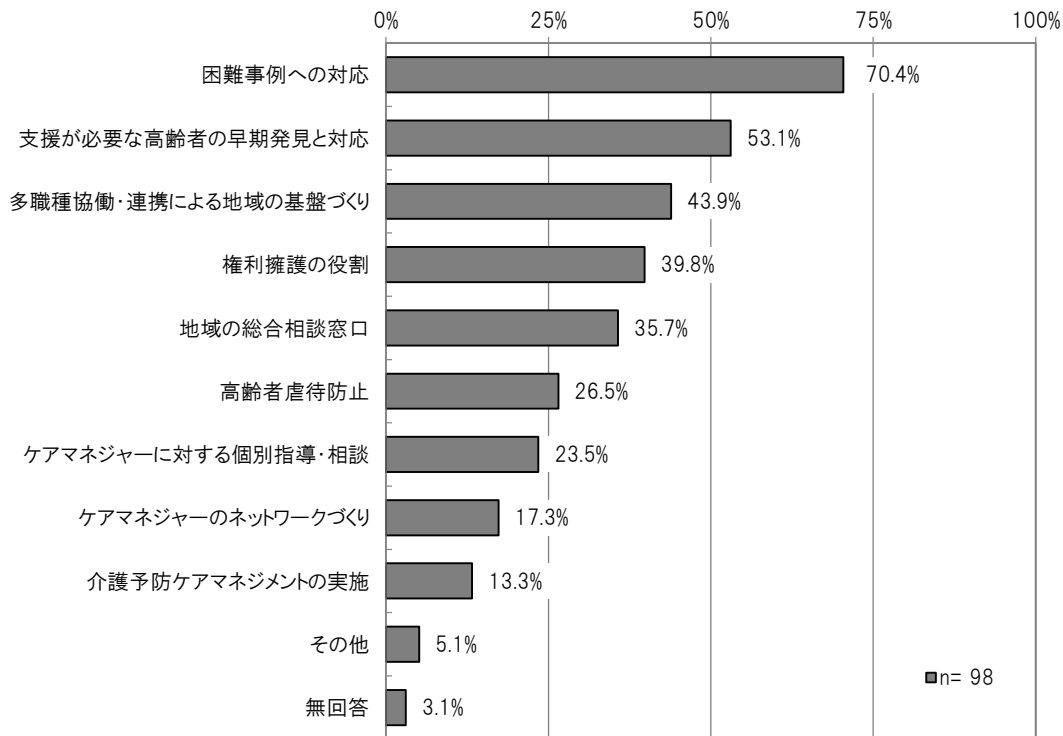
「認知症高齢者見守りサービス」が64.3%と最も高く、次いで「緊急通報システム」が60.2%、「ねたきり高齢者おむつ支給等事業」が50.0%となっています。



### 3 地域包括支援センターについて

問 14 小平市内の地域包括支援センターにおいて、機能強化が必要と思われることは何ですか。(〇はいくつでも)

「困難事例への対応」が 70.4%と最も高く、次いで「支援が必要な高齢者の早期発見と対応」が 53.1%、「多職種協働・連携による地域の基盤づくり」が 43.9%となっています。



#### 【所在地別】

所在地別にみると、西圏域と東圏域で「支援が必要な高齢者の早期発見と対応」が、中央西圏域と中央圏域と中央東圏域で「困難事例への対応」が最も高くなっています。

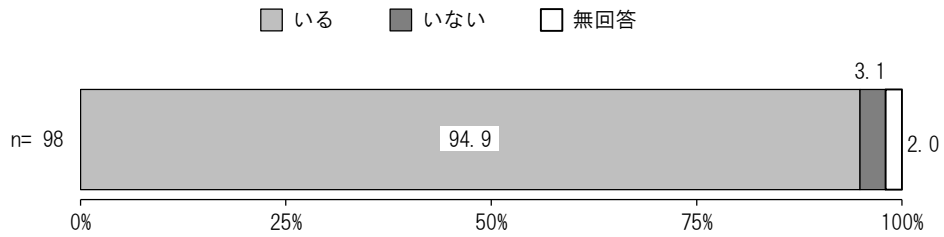
単位：%

区分	有効回答数(件)	地域の総合相談窓口	支援が必要な高齢者の早期発見と対応	高齢者虐待防止	困難事例への対応	権利擁護の役割	介護予防ケアマネジメントの実施	ケアマネジャーに対する個別指導・相談	ケアマネジャーのネットワークづくり	多職種協働・連携による地域の基盤づくり	その他	無回答
西圏域	17	29.4	64.7	35.3	58.8	47.1	11.8	17.6	11.8	23.5	—	11.8
中央西圏域	26	26.9	38.5	19.2	76.9	42.3	11.5	19.2	19.2	42.3	3.8	—
中央圏域	10	50.0	30.0	20.0	70.0	30.0	30.0	20.0	20.0	50.0	—	—
中央東圏域	27	33.3	63.0	37.0	77.8	37.0	11.1	25.9	18.5	55.6	7.4	—
東圏域	17	52.9	64.7	17.6	58.8	35.3	11.8	35.3	17.6	41.2	11.8	5.9

## 4 認知症の方の支援について

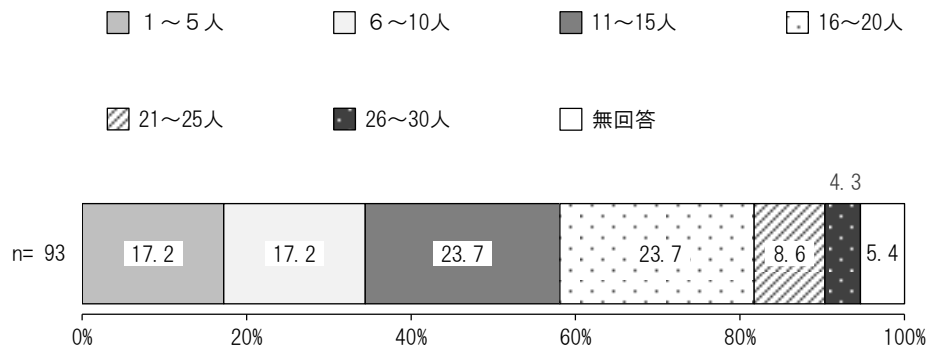
問15 あなたが担当している利用者の中に、認知症の方（確定診断をしていない方も含む）はいますか。いる場合には、人数もお答えください。（1つに○）

「いる」が94.9%、「いない」が3.1%となっています。



### 【人数】

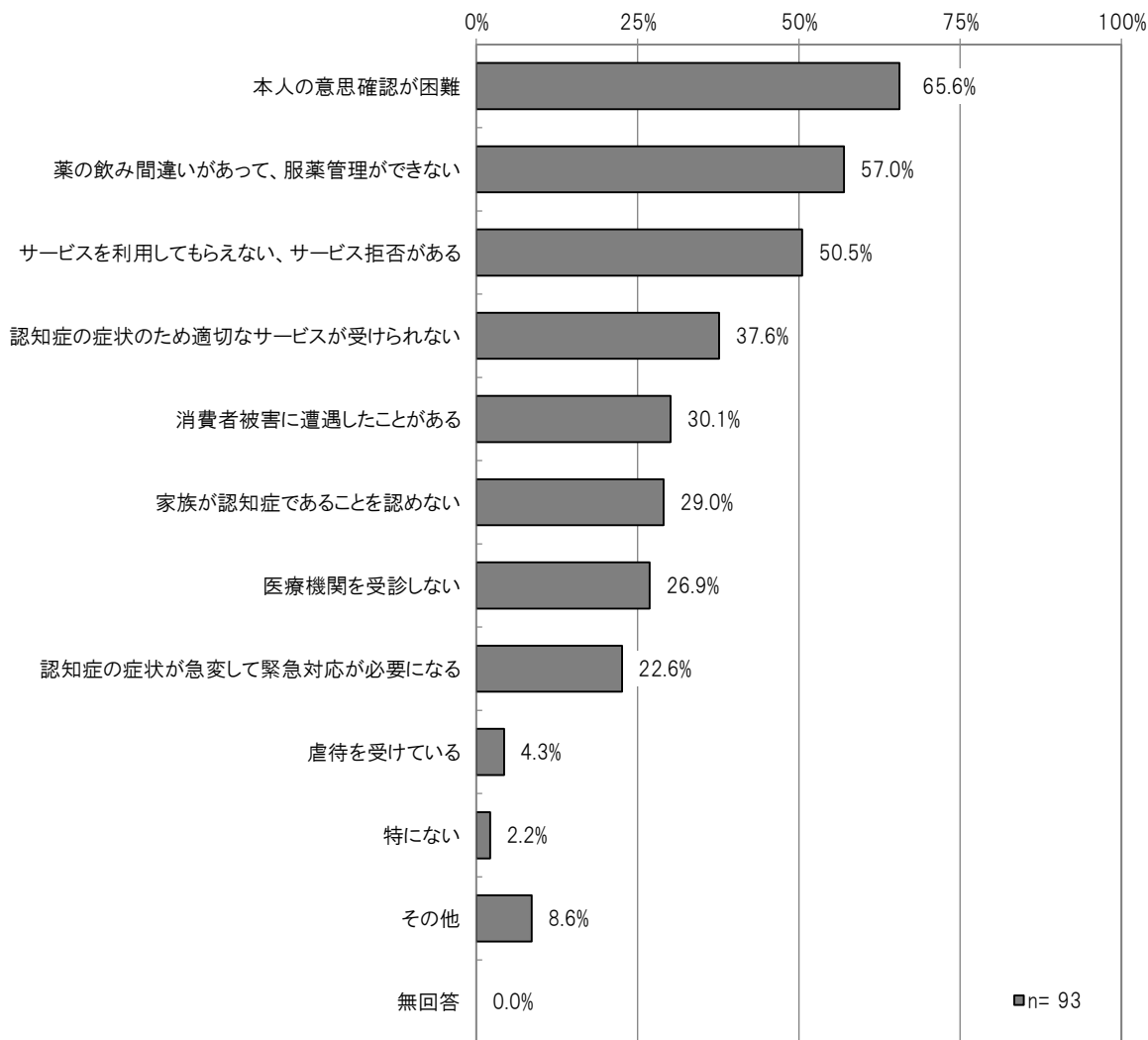
人数は「11～15人」と「16～20人」が23.7%と最も高く、次いで「1～5人」と「6～10人」が17.2%となっています。



問 15 で「1. いる」と回答した方にうかがいます。

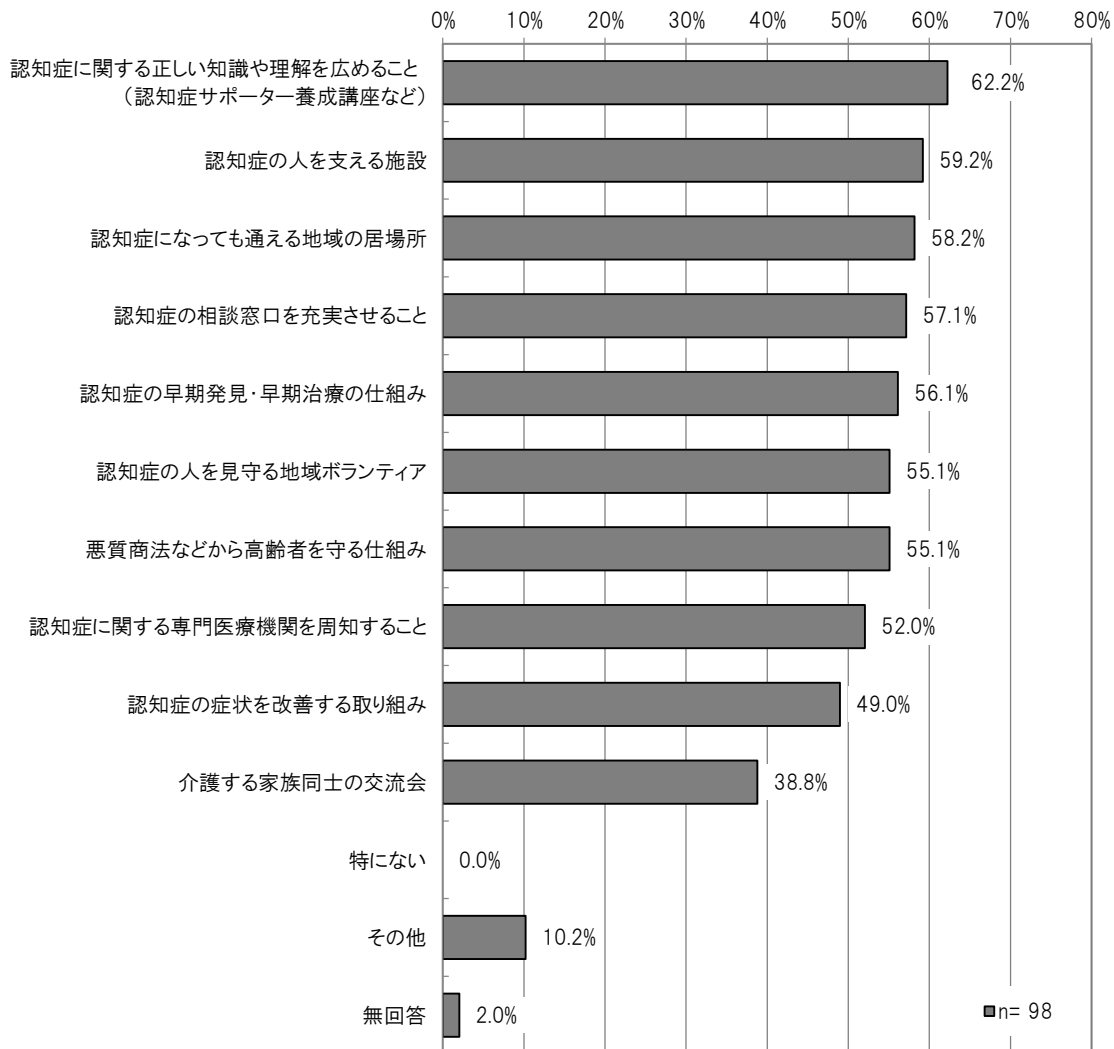
問 16 現在担当している認知症の方の課題で、該当するものはどれですか。  
(〇はいくつでも)

「本人の意思確認が困難」が 65.6%と最も高く、次いで「薬の飲み間違いがあつて、服薬管理ができない」が 57.0%、「サービスを利用してもらえない、サービス拒否がある」が 50.5%となっています。



問17 今後、認知症の方の支援にあたり必要になると思うのは、次のどれですか。  
（〇はいくつでも）

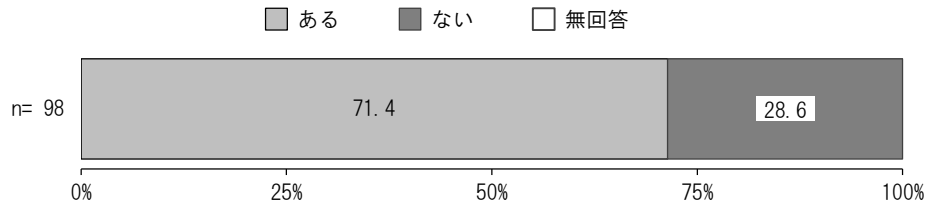
「認知症に関する正しい知識や理解を広めること（認知症サポーター養成講座など）」が62.2%と最も高く、次いで「認知症の人を支える施設」が59.2%、「認知症になっても通える地域の居場所」が58.2%となっています。



## 5 高齢者虐待について

問 18 家庭内における高齢者虐待（疑いを含む）の事例を経験（担当）したことがありますか。（1つに○）

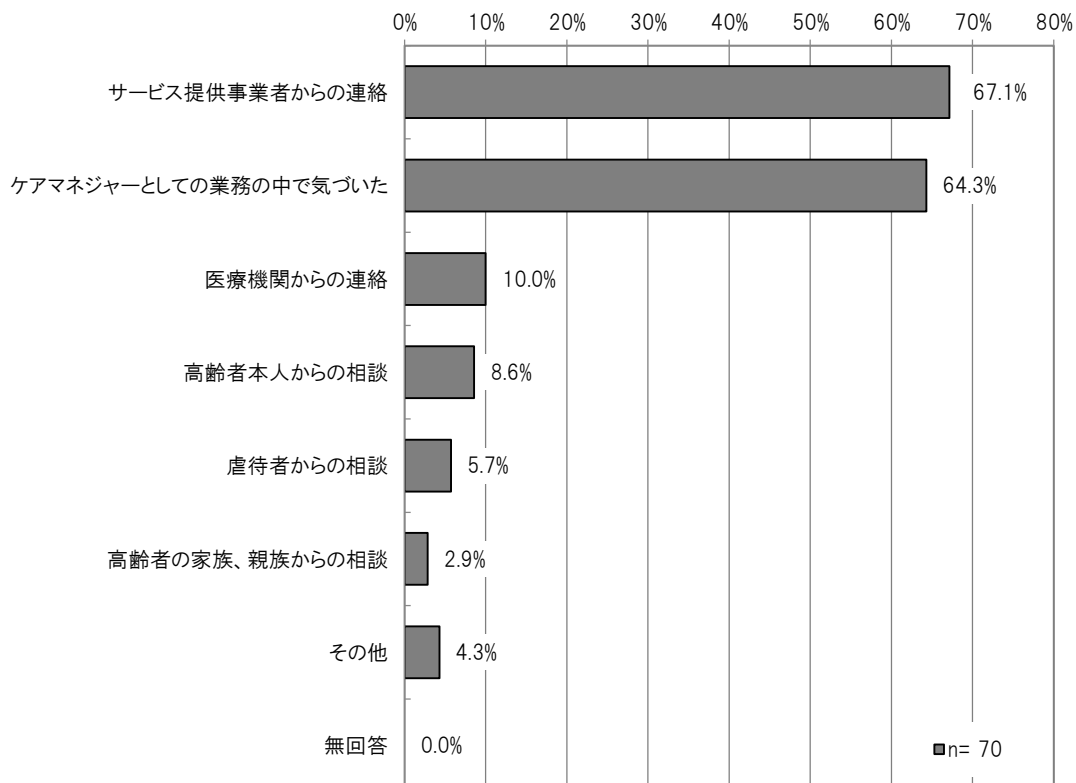
「ある」が71.4%、「ない」が28.6%となっています。



問 18 で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

問 19 高齢者虐待（疑いを含む）の事実を知った経緯は何ですか。（○はいくつでも）

「サービス提供事業者からの連絡」が67.1%と最も高く、次いで「ケアマネジャーとしての業務の中で気づいた」が64.3%、「医療機関からの連絡」が10.0%となっています。





問18で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

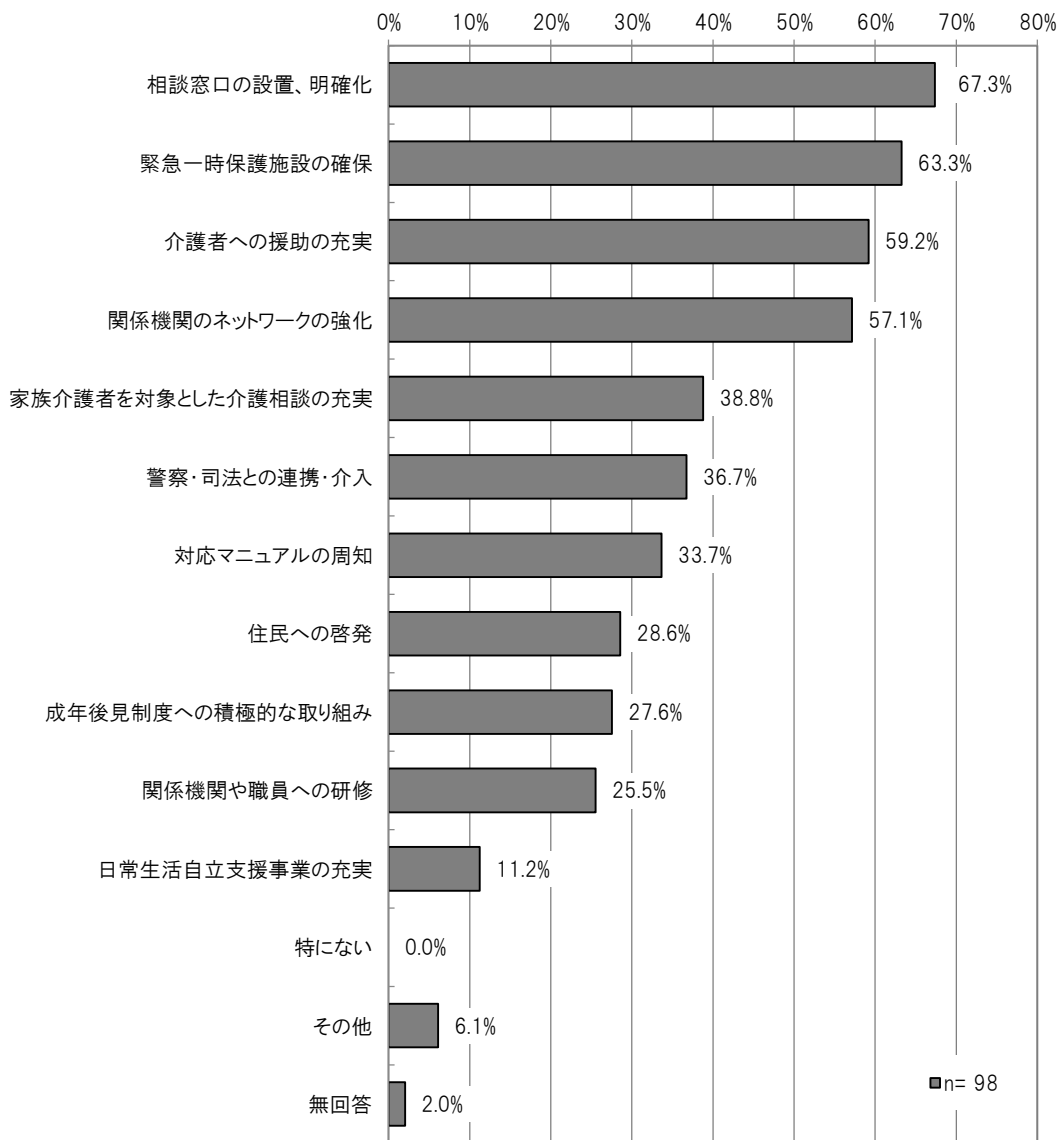
問20 その時は、主にどのように解決をはかりましたか。（〇はいくつでも）

回答は135件でした。「地域包括支援センターに相談・連携し、解決をはかった」が59件と最も多く、次いで「介護保険サービス事業者に相談・連携し、解決をはかった」が28件、「保険者（市役所）に相談・連携し、解決をはかった」が25件となっています。

	分野	件
1	地域包括支援センターに相談・連携し、解決をはかった	59
2	介護保険サービス事業者に相談・連携し、解決をはかった	28
3	保険者（市役所）に相談・連携し、解決をはかった	25
4	医療機関に相談・連携し、解決をはかった	15
5	事業所内で解決した	6
6	その他	2
回答者数		135

問 21 高齢者虐待への対応として必要な制度や仕組みはどのようなものだと思いますか。  
(〇はいくつでも)

「相談窓口の設置、明確化」が 67.3%と最も高く、次いで「緊急一時保護施設の確保」が 63.3%、「介護者への援助の充実」が 59.2%となっています。



## 第7章 介護支援専門員（ケアマネジャー）

### 【経験年数別】

経験年数別にみると、1年未満では「相談窓口の設置、明確化」と「成年後見制度への積極的な取り組み」が、1年以上3年未満では「相談窓口の設置、明確化」と「関係機関のネットワークの強化」が、3年以上では「関係機関のネットワークの強化」が、5年以上と10年以上では「相談窓口の設置、明確化」がそれぞれ最も高くなっています。

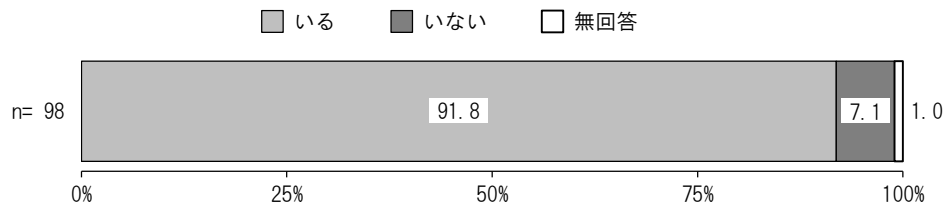
単位：%

経験年数	有効回答数（件）	相談窓口の設置、明確化	関係機関のネットワークの強化	対応マニュアルの周知	介護者への援助の充実	住民への啓発	関係機関や職員への研修	緊急一時保護施設の確保	成年後見制度への積極的な取り組み	日常生活自立支援事業の充実	家族介護者を対象とした介護相談の充実	警察・司法との連携・介入	その他	特にない	無回答
1年未満	4	50.0	—	25.0	25.0	—	—	—	50.0	—	25.0	25.0	—	—	—
1年以上 3年未満	10	60.0	60.0	50.0	70.0	30.0	30.0	50.0	30.0	20.0	30.0	50.0	—	—	10.0
3年以上	10	50.0	70.0	30.0	50.0	40.0	10.0	60.0	40.0	10.0	20.0	50.0	—	—	10.0
5年以上	28	75.0	57.1	32.1	50.0	28.6	17.9	71.4	25.0	10.7	39.3	28.6	17.9	—	—
10年以上	45	68.9	57.8	31.1	66.7	26.7	35.6	66.7	22.2	11.1	44.4	37.8	2.2	—	—

## 6 医療と介護の連携について

問 22 あなたが担当している利用者の中に、訪問診療※が必要と思われる方はいますか。いる場合には、人数もお答えください。(1つに○)

「いる」が91.8%、「いない」が7.1%となっています。

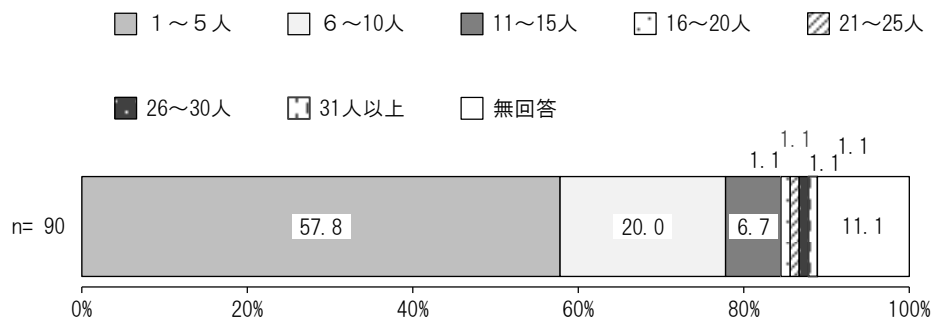


### ※訪問診療

医師が定期的に自宅を訪問して、診療を行うことを言います。突発的な病状の変化時に、利用者からの要請により、医師が自宅に診察に来る「往診」とは異なるものです。

### 【人数】

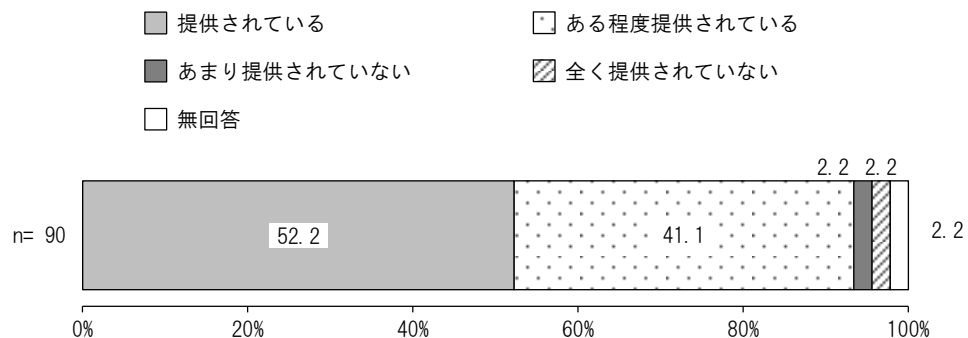
人数は「1～5人」が57.8%と最も高く、次いで「6～10人」が20.0%、「11～15人」が6.7%となっています。



問 22 で「1. いる」と回答した方にうかがいます。

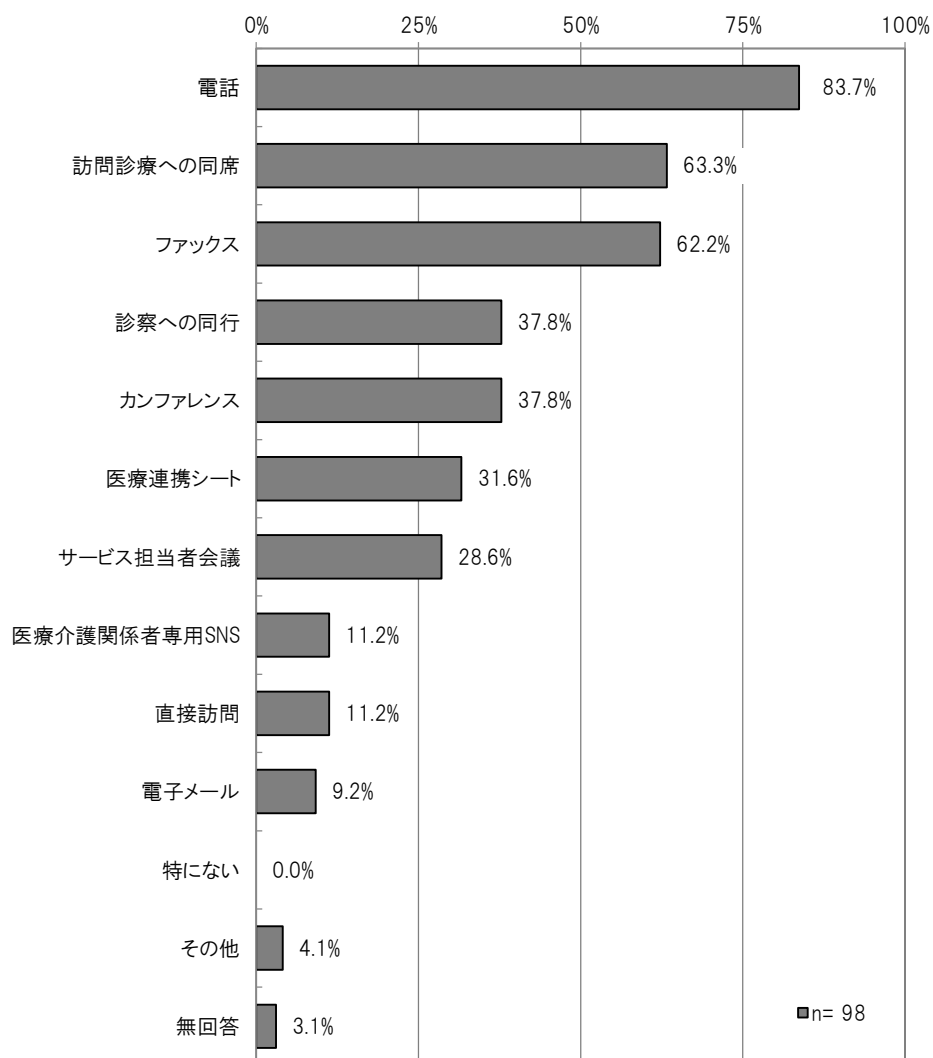
問 23 あなたは、訪問診療が必要と思われる方に、訪問診療が提供されていると思いますか。(1つに○)

「提供されている」と「ある程度提供されている」をあわせた“提供されている”が93.3%となっています。



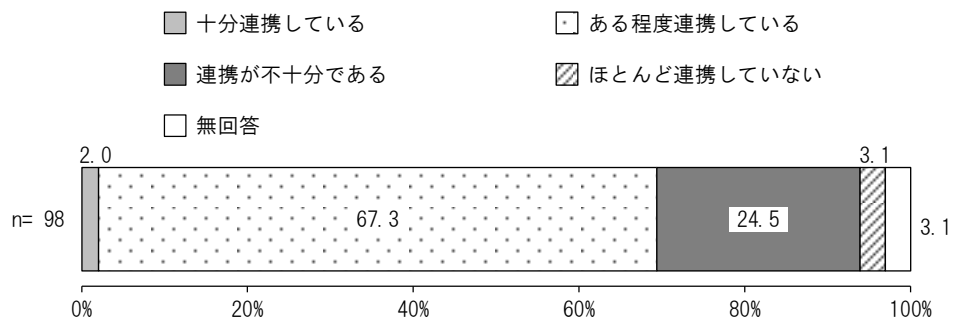
問24 あなたは、通常、医療機関やかかりつけ医とどのような方法で情報を交換していますか。（〇はいくつでも）

「電話」が83.7%と最も高く、次いで「訪問診療への同席」が63.3%、「ファックス」が62.2%となっています。



問 25 小平市民の在宅療養者への支援において、医療・介護は連携していると思いますか。(1つに○)

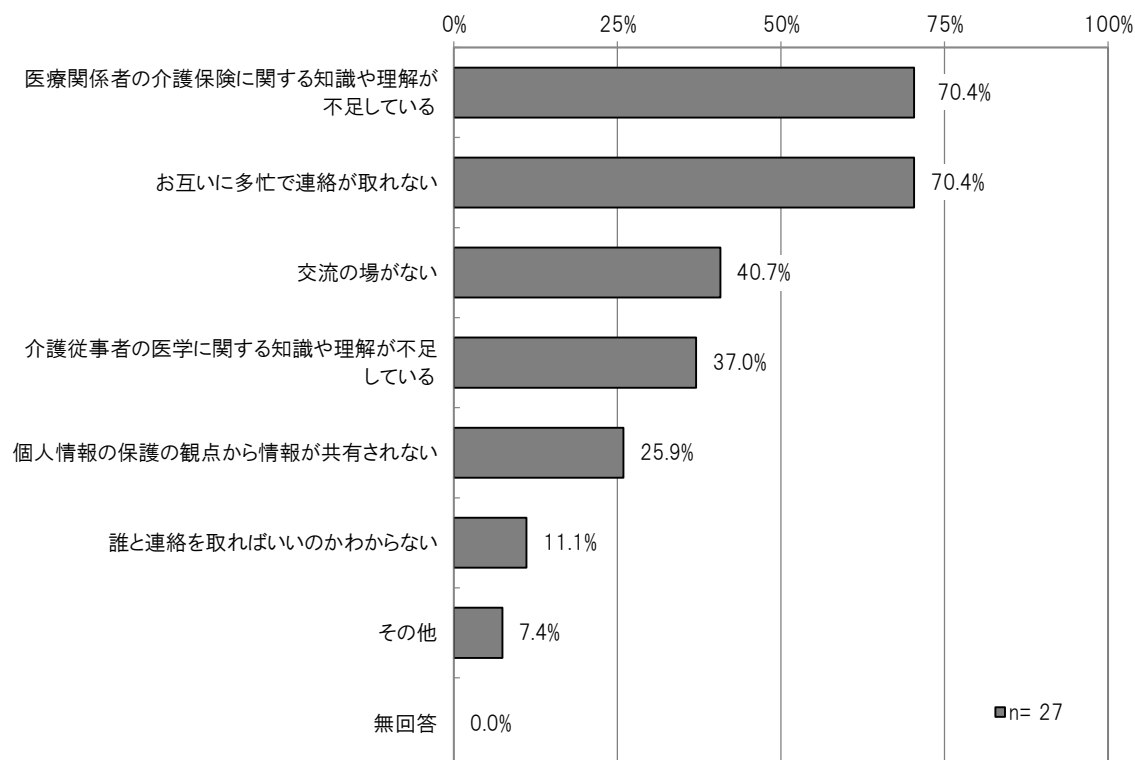
「ある程度連携している」が 67.3%と最も高く、次いで「連携が不十分である」が 24.5%となっています。



問 25 で、「3. 連携が不十分である」または「4. ほとんど連携していない」と回答した方にうかがいます。

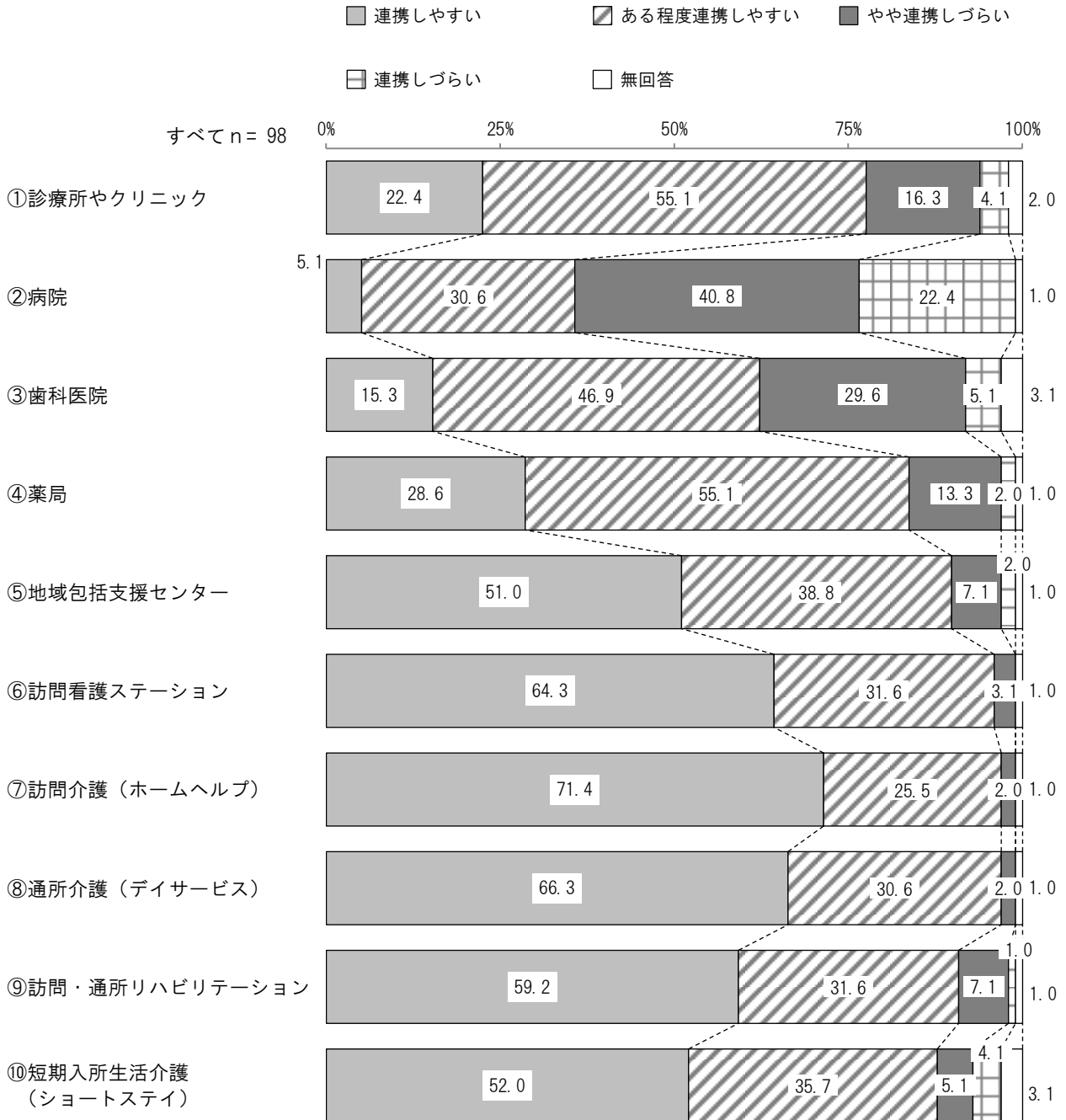
問 26 あなたがそのように考える理由は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

「医療関係者の介護保険に関する知識や理解が不足している」と「お互いに多忙で連絡がとれない」が 70.4%と最も高く、次いで「交流の場がない」が 40.7%となっています。



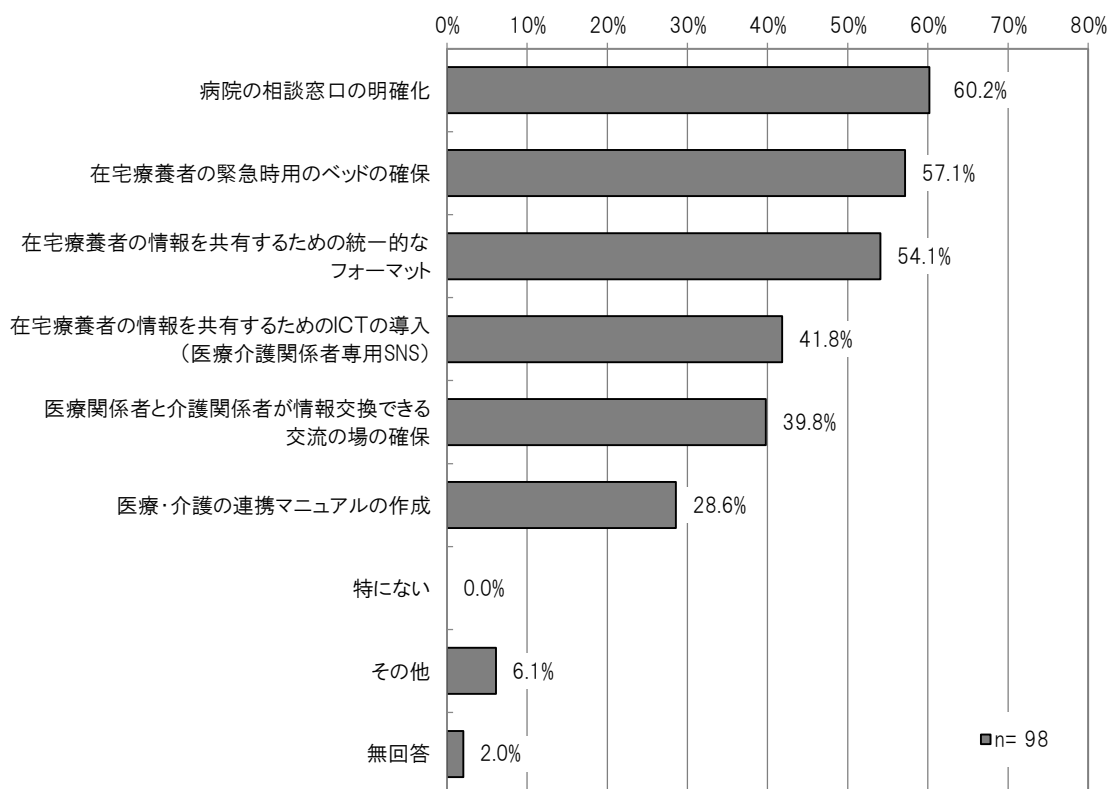
問 27 あなたが関わるサービス利用者について、次の関係機関、職種と連携しやすいですか。（①～⑩それぞれ1つずつ○）

④～⑩までで「連携しやすい」と「ある程度連携しやすい」をあわせた“連携しやすい”が80.0%を超えています。一方、「やや連携しづらい」と「連携しづらい」をあわせた“連携しづらい”が②病院では60%を超えています。



問 28 あなたは、在宅療養者について医療・介護の連携をはかるためにどのようなことが必要だとお考えですか。(〇はいくつでも)

「病院の相談窓口の明確化」が60.2%と最も高く、次いで「在宅療養者の緊急時用のベッドの確保」が57.1%、「在宅療養者の情報を共有するための統一的なフォーマット」が54.1%となっています。



問 29 あなたは、医療との連携でどのようなことに苦労していますか。

意見は88件でした。「医療関係者との連絡体制について」についての意見が33件と最も多くなっています。

	分野	件
1	医療関係者との連絡体制について	33
2	医療関係者の連携姿勢について	22
3	大病院との連携について	15
4	入退院時の連携について	6
5	個人情報保護について	4
6	医療関係者の介護保険や在宅生活に関する知識や理解について	3
7	サービス担当者会議について	1
—	その他	4
回答者数		88



## ①医療関係者との連絡体制について（33件）

回答の概要
病院の外来患者に対する連携。外来患者用連携窓口があると良い。
クリニック等は訪問や電話をいつすればよいか不明。受け付けに連絡しても連携が取りにくい。同行が一番話しやすく連携しやすいが、時間がかかり他の業務に支障がでる。
病院は相談窓口にて相談員を通しての連携はしやすい。
担当者がなかなかつかまらない。お互い行き違いになる。やっと連絡が取れるのが業務終了間近になることが多い。
医師が多忙の為、医師と直接話す事ができない。医師と話ができる時間帯がわからない。
総合病院の連携窓口がそれぞれ違うため、どの窓口に相談すべきかわからない。
訪問診療の先生は家庭の状況をわかっているので、連携は取りやすいと思います。
訪問系の医師や看護師は話せる機会はあるものの、病院は直接利用者と一緒に受診の同行をしないかぎり話をする事は難しい状況にある。
各々病院によっても異なるが、一方通行でなかなかこちらの質問等に返事がいただけない。
訪問診療の主治医とは連携がとれて、主治医から必要な追加のサービス等の連絡もあり、助言もあり助かっている。他の医療機関からの連絡はないので、利用者についての医療的側面からの理解は不足している状態である。
非常勤医師が担当医の場合、出勤している時に合わせてケアマネジャーが連携を取るのが難しい。

## ②医療関係者の連携姿勢について（22件）

回答の概要
多くの疾病をかかえる方が増加しています。一人一人の患者に対して医療機関同士の連携をしてほしいです。各科でそれぞれの意見があり、薬の調整等も困難な場合が生じています。
医療では専門用語で話すことが多いが、介護ではむしろ使わずに噛みくだいて話すよう指導を受けている。その違いを理解して欲しい。
ケアマネジャーとの連携が十分でない場合、知らない間に居宅療養管理指導が導入されていることもある。
医師は忙しいと思うので、サービス担当者会議への出席依頼をしづらい。
軽度者の例外貸与などで医師のコメントが必要なとき、医師が患者の生活状況を知らないため、情報が伝わりにくい。

## ③大病院との連携について（15件）

回答の概要
大病院など連携が難しい。入院患者ならばよいのですが、通院の場合、どこに連絡してよいか、連携室に連絡しても迷惑そうです。
大きな病院の医師とは、医療連携室を通して連絡を行なうが、時間が掛ってしまう事や直接やり取りが出来ないために明確な答えを頂けなかったりする事がある。

回答の概要
大病院が主治医だと電話もつないでもらえず、書面やファックスでも数ヶ月くらい返信が来ないこともある。

④入退院時の連携について（6件）

回答の概要
入院時、情報提供をしたいが、どこに伝えればよいかわからない。すぐに相談員がついているわけではないので、病院で知り得たいであろう情報を提供できない。
退院時、退院カンファレンスにケアマネジャーが呼ばれないまま、もしくは、退院カンファレンスをせずに退院する場合があります、入院中の看護サマリー等もなく、家族からの情報も不十分だったりする。
退院前のカンファレンス等において、本人の状態から必要と思われるサービスの提案がされるが、本人や家族の意向を確認せずに進めるときがあり、退院後にトラブルになることがある。
独居の方の入院、退院支援。

⑤個人情報保護について（4件）

回答の概要
病院によっては、個人情報を理由に電話では用件が済まないことがあり、手間となる
ファックスでの対応でも個人情報の件があるのでほとんど黒ぬりで内容が伝わりにくい。郵送となれば金額がかさむので苦労する。

⑥医療関係者の介護保険や在宅生活に関する知識や理解について（3件）

回答の概要
医療機関によって介護保険の理解に差があること。

⑦サービス担当者会議について（1件）

回答の概要
サービス担当者会議等での医師の同席が困難。訪問診療の利用者については医師の訪問時に合わせて開催する時もあるが、ほとんど調整困難である。

⑧その他（4件）

回答の概要
血縁者に支援ができる人がいないとか、身よりのないなどの利用者については、日々の細かな支援や体調のタイムリーな伝達、緊急時の対応の選択が困難な場合がある。

問 30 あなたは、医療関係機関（病院・診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、病院の地域連携室など）にどのようなことを期待しますか。

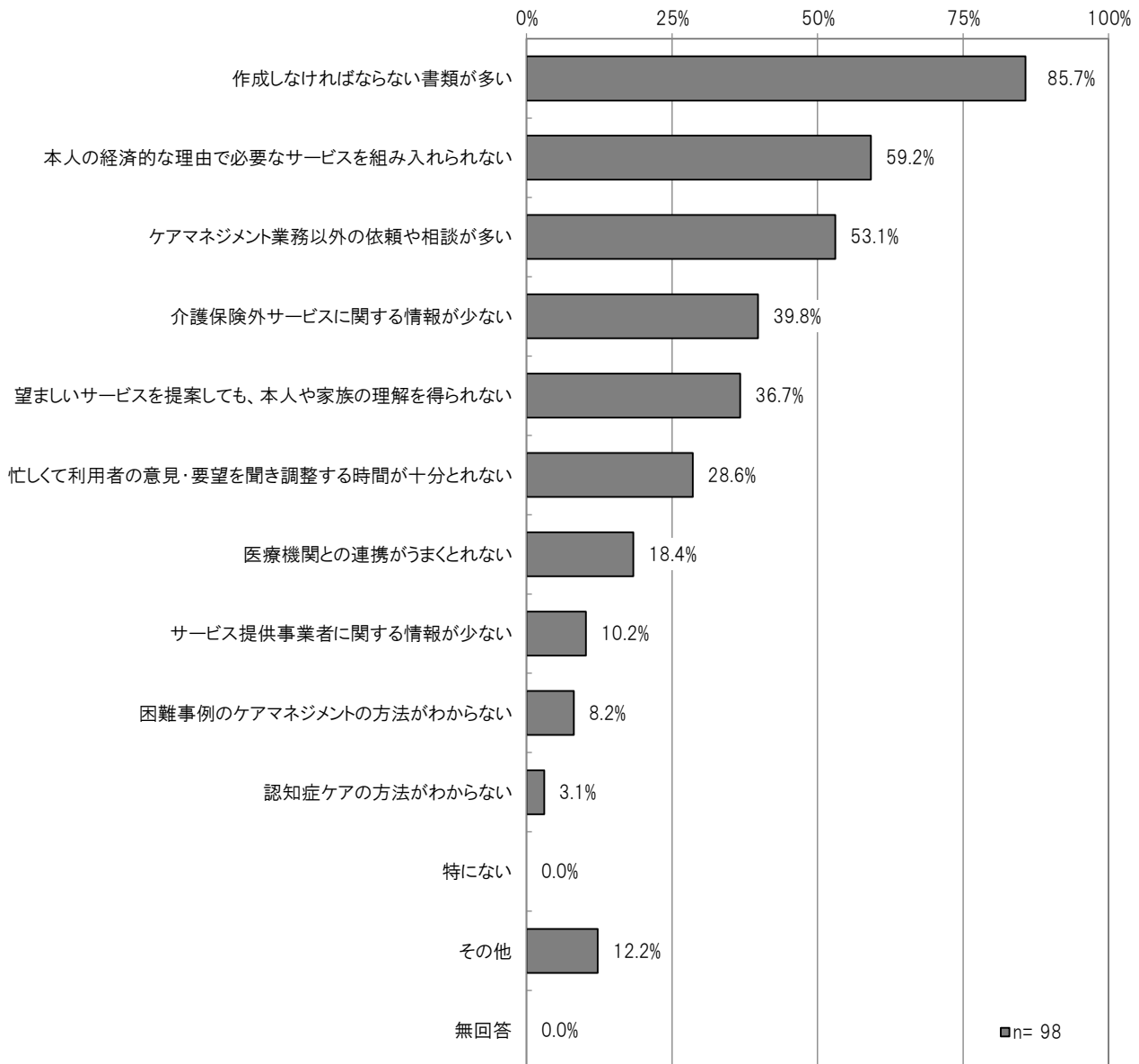
意見は59件でした。主な意見は以下のとおりです。

回答の概要
タイムリーな報告による情報共有を期待する。
医療と個々の生活（その人らしさ）の相互理解を深めていきたい。特に病院は規模が大きい程、連携がしづらい。在宅の高齢者の生活の理解が得づらい。背景が複雑なケース程、共に理解し共に考えてもらえると心強い。
SNSなど、システム面の充実が必要と考えます。電話やFAXの時代ではない。
在宅か施設かの方向性を決める際に、もっと親身になって関わって欲しい。医療処置が必要になった際（胃ろう、インスリン、カテーテル）、受け入れ事業所が狭くなってしまうため、よく話し合いたい。
ケアマネジャーは家族代理ではないことを理解してもらうこと。利用者の幸せな生活について考えてもらうこと。
医療面だけでなく自宅での実際の状態や不都合部分等を聞いて、連携してほしい。
病院の連携室と退院後も連携をとりたい。
お互いの歩みよりが必要だと思います。連携というのであれば介護保険制度、お互いの立場など理解してほしいと思う。大きな病院は連携が取りづらいです。
ケアマネ相談タイムを設けてもう少し話を聞いてほしい。目標は一緒と思います。忙しいのは理解しておりますが、介護制度上、確認することも多い事情をわかってほしいです。
同じ利用者に関わるメンバーとして、協力していただける関係であってほしい。
高齢者の生活をイメージして、関わって欲しい。多くの情報は高齢者に伝わっていないことがほとんどです。
顔の見える、話しやすい、相談しやすい事が一番良いと思う。それぞれの分野をわかりやすく情報共有できると良い。

## 7 ケアマネジャー業務全般について

問 31 あなたが現在、業務をする上でどのようなことに問題や難しさを感じますか。  
(〇はいくつでも)

「作成しなければならない書類が多い」が 85.7%と最も高く、次いで「本人の経済的な理由で必要なサービスを組み入れられない」が 59.2%、「ケアマネジメント業務以外の依頼や相談が多い」が 53.1%となっています。



第7章 介護支援専門員（ケアマネジャー）

【経験年数別】

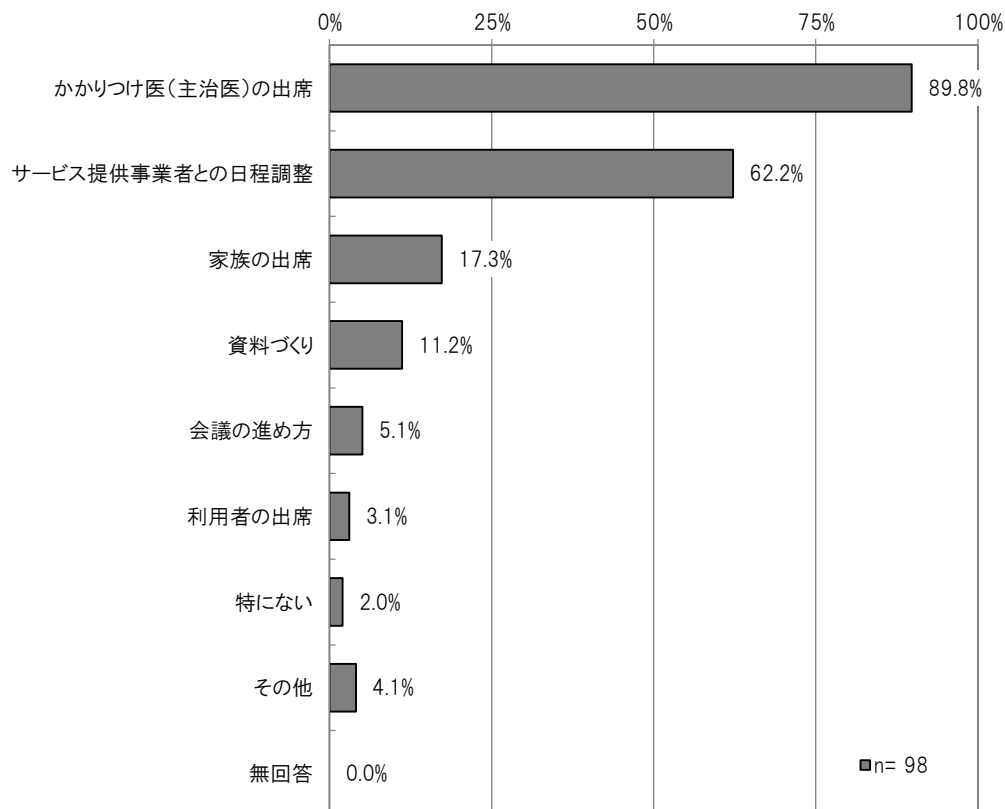
いずれの経験年数でも、「作成しなければならない書類が多い」が最も高くなっています。

単位：%

経験年数	有効回答数（件）	忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が十分とれない	望ましいサービスを提案しても、本人や家族の理解を得られない	本人の経済的な理由で必要なサービスを組み入れられない	サービス提供事業者に関する情報が少ない	介護保険外サービスに関する情報が少ない	困難事例のケアマネジメントの方法がわからない	認知症ケアの方法がわからない	医療機関との連携がうまくとれない	作成しなければならない書類が多い	ケアマネジメント業務以外の依頼や相談が多い	その他	特にない	無回答
1年未満	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	—	—	25.0	100.0	—	—	—	—
1年以上 3年未満	10	40.0	50.0	50.0	10.0	30.0	10.0	10.0	20.0	90.0	60.0	—	—	—
3年以上	10	30.0	40.0	60.0	—	10.0	30.0	10.0	20.0	90.0	60.0	—	—	—
5年以上	28	39.3	32.1	71.4	3.6	53.6	10.7	—	25.0	75.0	67.9	10.7	—	—
10年以上	45	20.0	35.6	55.6	13.3	40.0	2.2	2.2	13.3	88.9	44.4	20.0	—	—

問 32 サービス担当者会議の開催にあたって、困難と感ずることは何ですか。  
 (〇はいくつでも)

「かかりつけ医（主治医）の出席」が 89.8%と最も高く、次いで「サービス提供事業者との日程調整」が 62.2%、「家族の出席」が 17.3%となっています。



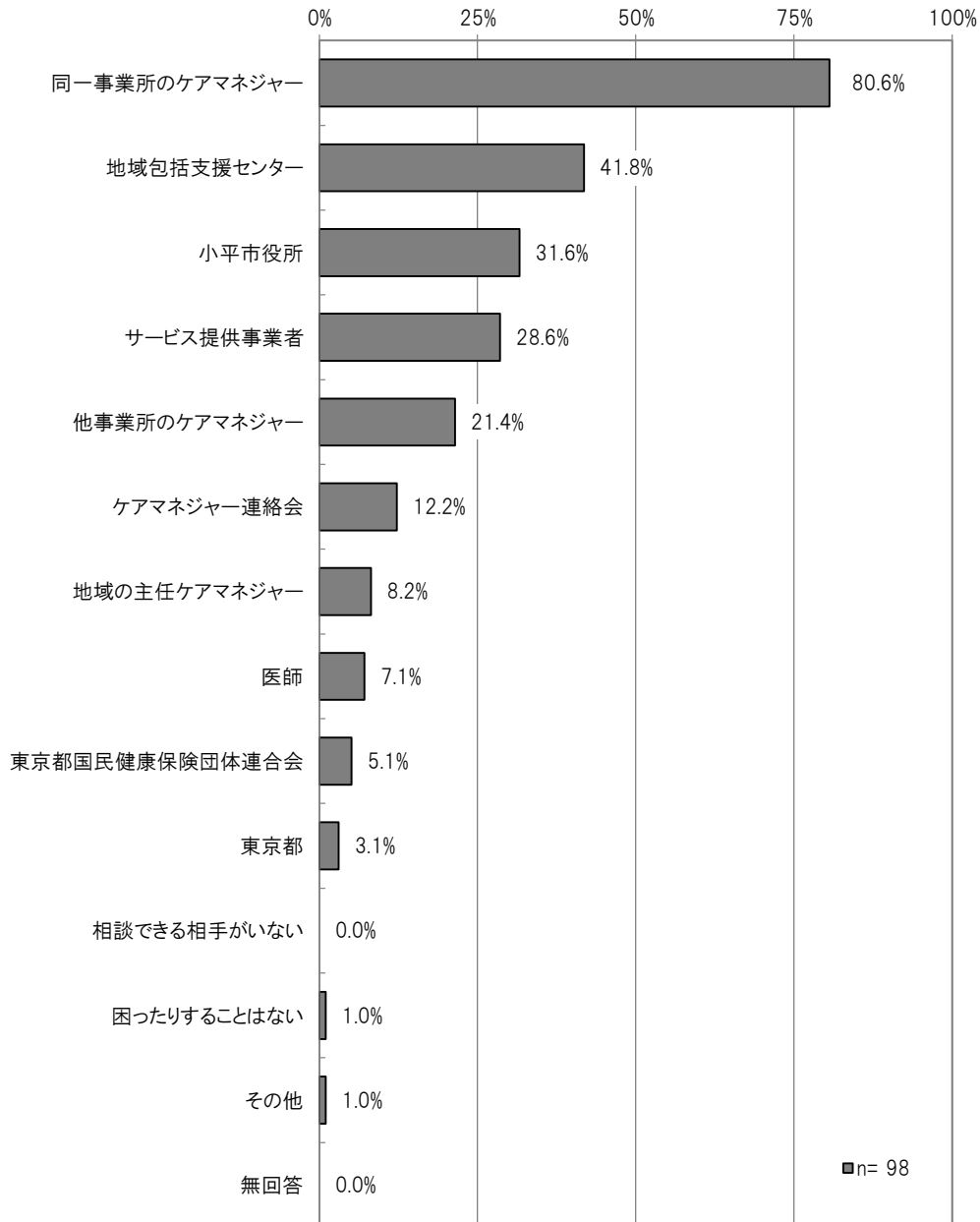
問 33 あなたが感じた困難なケースに対し、主にどのように解決をはかりましたか。

回答は 246 件でした。「地域包括支援センターに相談・連携し、解決をはかった」が 77 件と最も多く、次いで「介護保険サービス事業者に相談・連携し、解決をはかった」が 51 件、「事業所内で解決した」が 43 件となっています。

	分野	件
1	地域包括支援センターに相談・連携し、解決をはかった	77
2	介護保険サービス事業者に相談・連携し、解決をはかった	51
3	事業所内で解決した	43
4	保険者（市役所）に相談・連携し、解決をはかった	35
5	医療機関に相談・連携し、解決をはかった	35
6	その他	5
回答者数		246

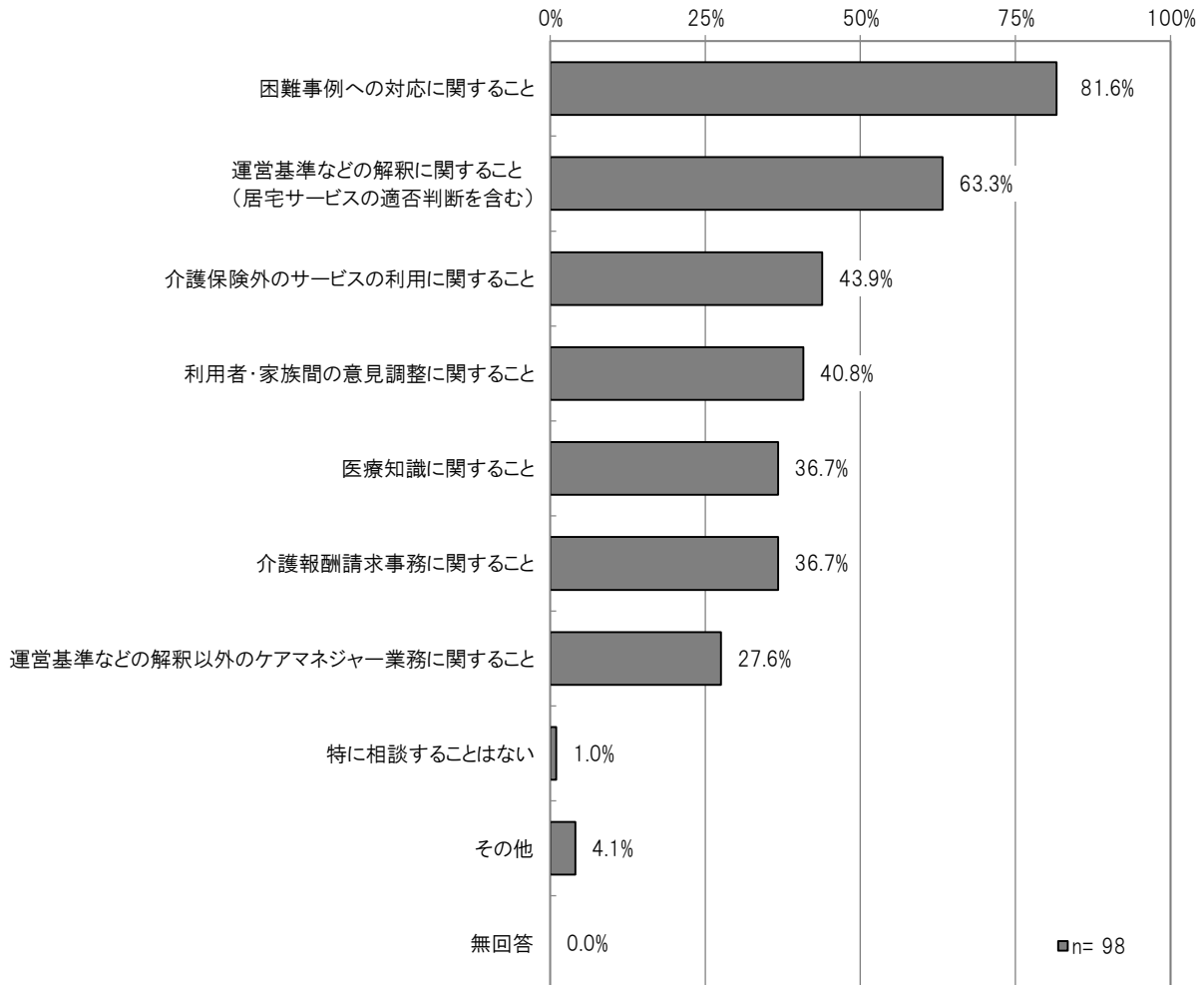
問 34 ケアプランを作成する上で、わからないことや困ったことがあったときの相談先はどこですか。（〇はいくつでも）

「同一事務所のケアマネジャー」が 80.6%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 41.8%、「小平市役所」が 31.6%となっています。



問 35 どのようなことを相談していますか。(〇はいくつでも)

「困難事例への対応に関すること」が81.6%と最も高く、次いで「運営基準などの解釈に関すること（居宅サービスの適否判断を含む）」が63.3%、「介護保険外のサービスの利用に関すること」が43.9%となっています。

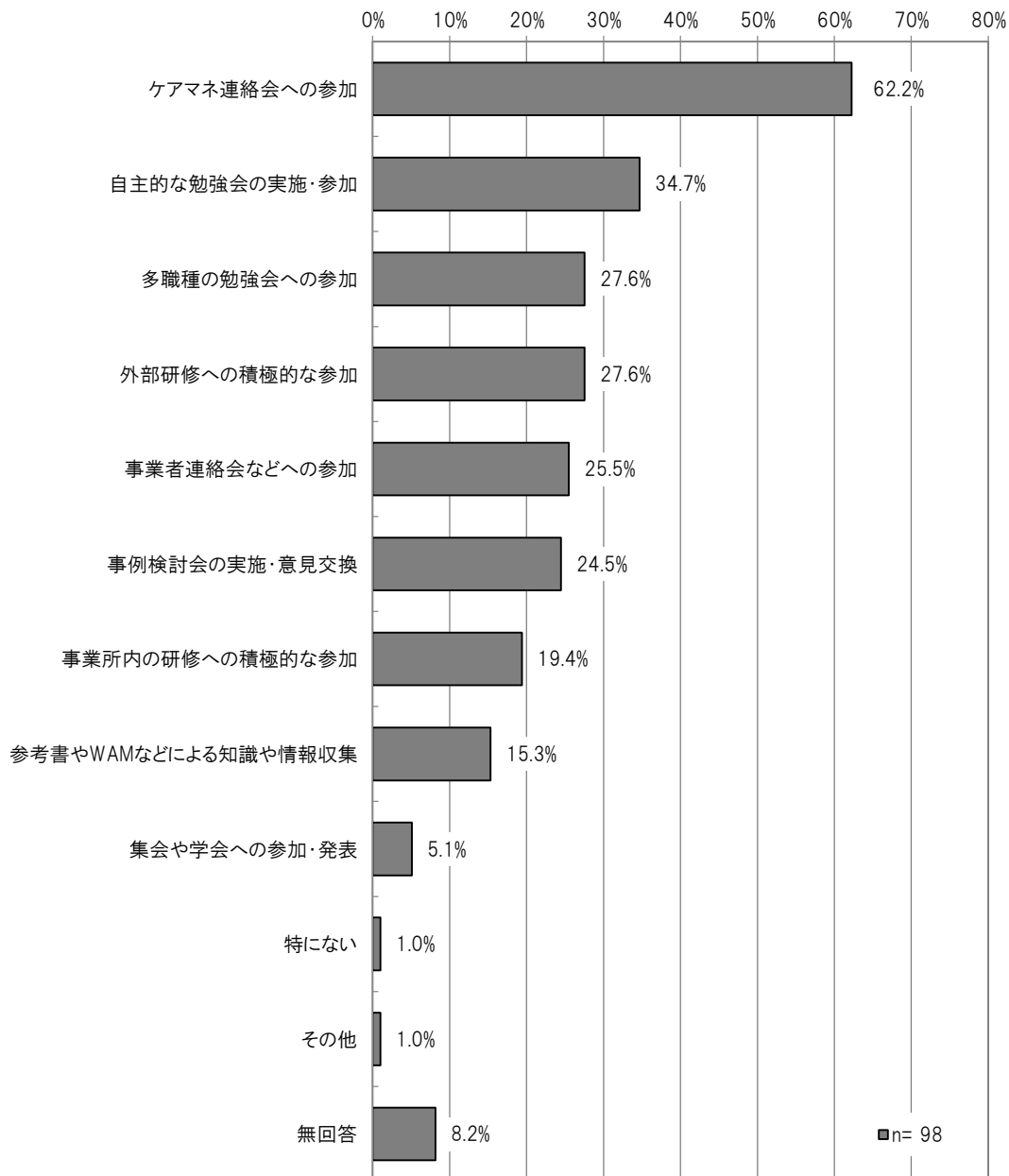




問 36 ご自身のケアマネジャー業務のレベルアップのために行っている・また今後行いたい取り組みは次のどれですか。（下の表から3つまで選んで番号を記入してください）

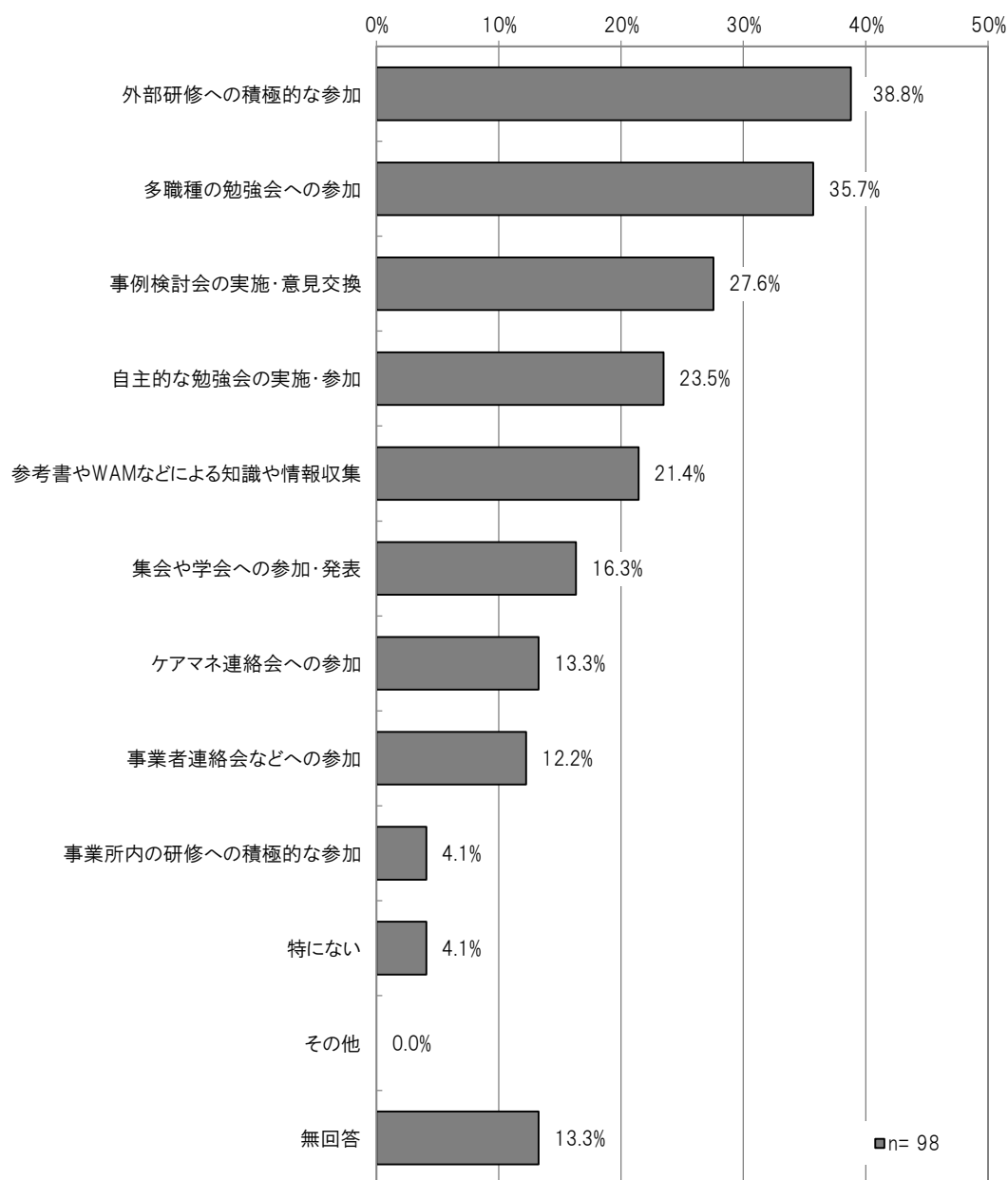
（1） 行っているもの（3つまで選択）

「ケアマネ連絡会への参加」が62.2%と最も高く、次いで「自主的な勉強会の実施・参加」が34.7%、「多職種の勉強会への参加」と「外部研修への積極的な参加」が27.6%となっています。



## (2) 今後行いたいもの(3つまで選択)

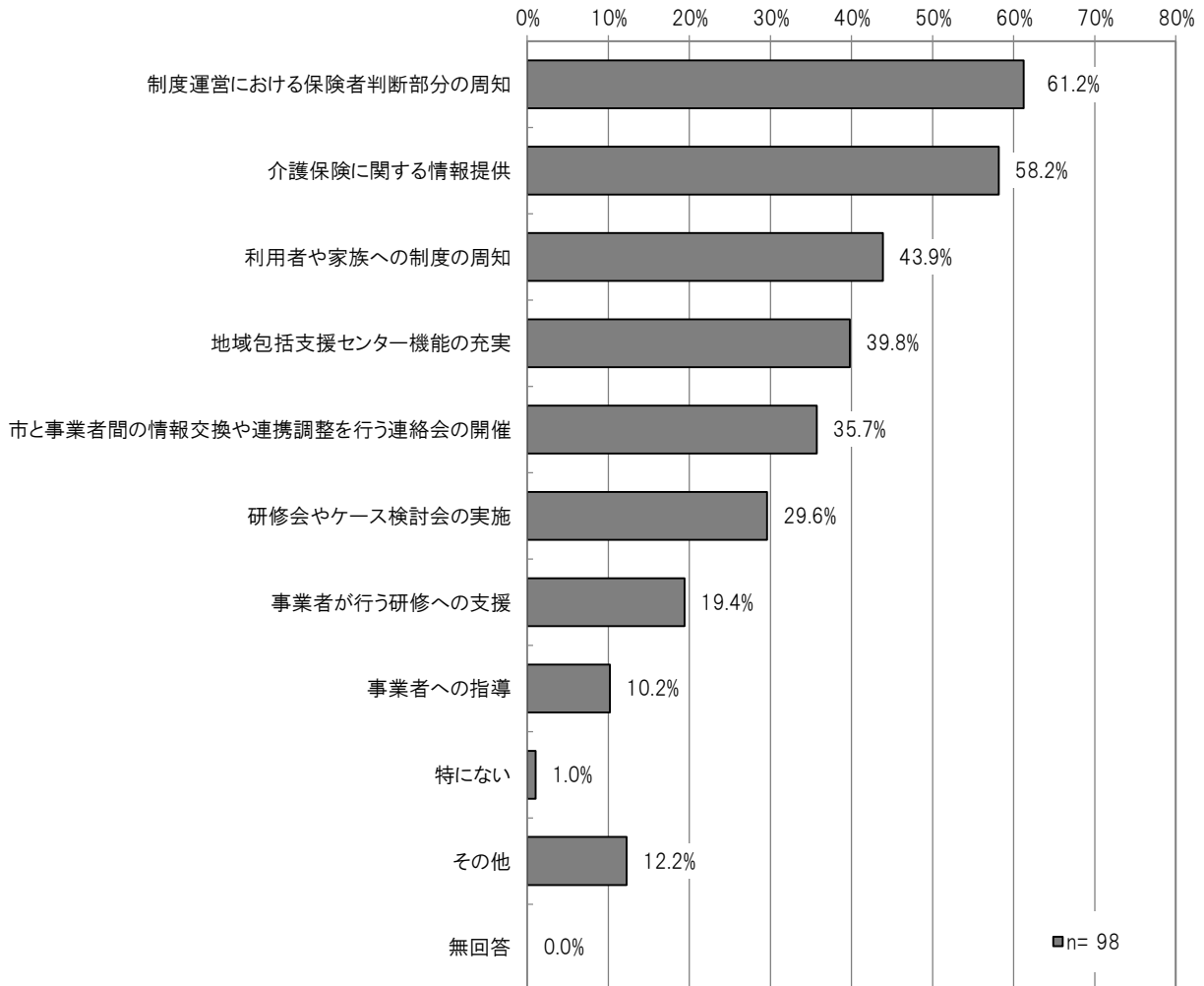
「外部研修への積極的な参加」の割合が38.8%と最も高く、次いで「多職種の勉強会への参加」が35.7%、「事例検討会の実施・意見交換」が27.6%となっています。



8 小平市への意向について

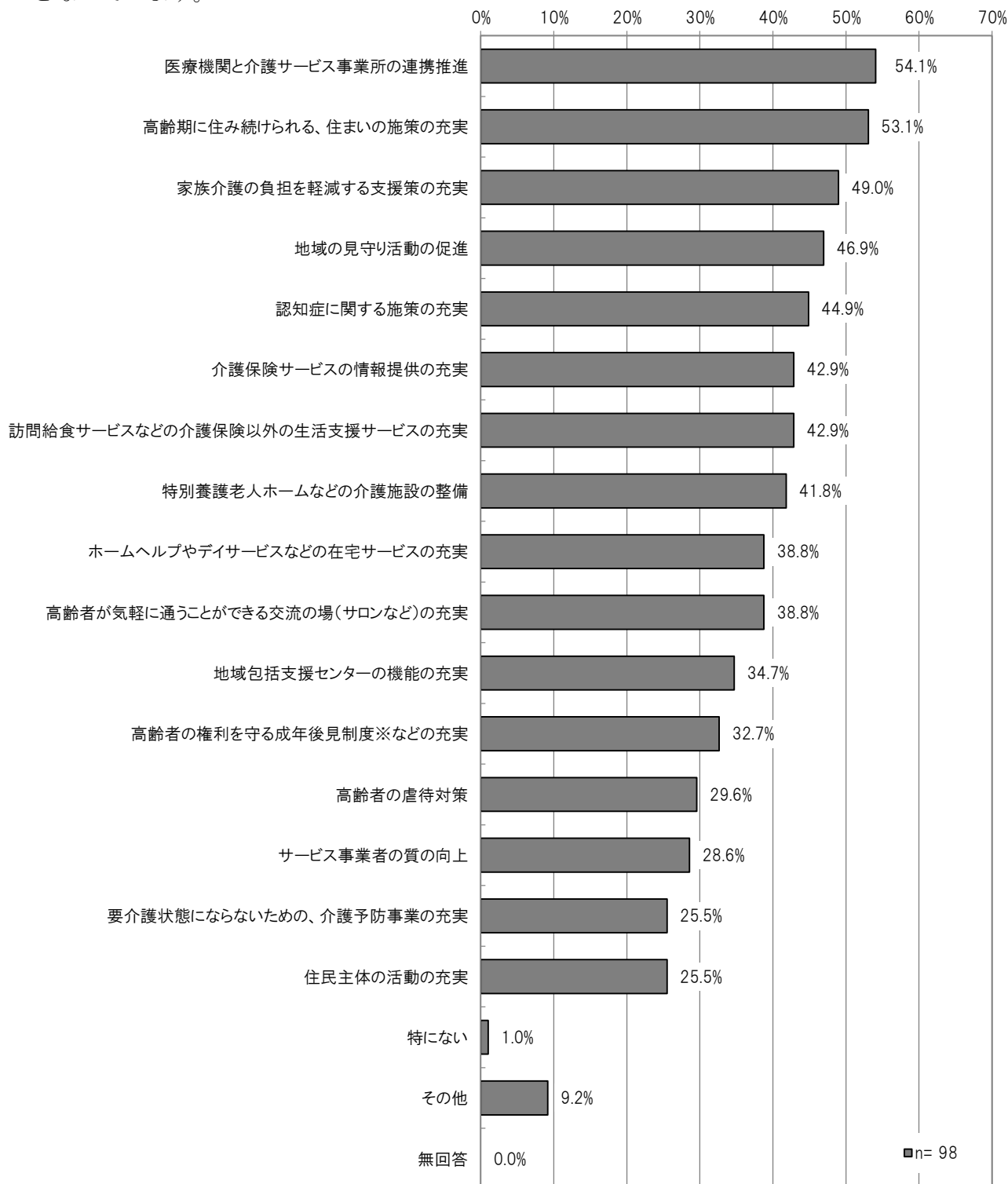
問 37 保険者としての小平市に対し、ケアマネジャーとして望むことは何ですか。  
（〇はいくつでも）

「制度運営における保険者判断部分の周知」が 61.2%と最も高く、次いで「介護保険に関する情報提供」が 58.2%、「利用者や家族への制度の周知」が 43.9%となっています。



問 38 介護保険制度を運営する上で、小平市が力を入れるべきことは何だと思いませんか。  
(〇はいくつでも)

「医療機関と介護サービス事業所の連携推進」が 54.1%と最も高く、次いで「高齢期に住み続けられる、住まいの施策の充実」が 53.1%、「家族介護の負担を軽減する支援策の充実」が 49.0%となっています。



※成年後見制度

高齢者や障がい者など、判断能力が十分ではない方の権利を守る制度です。成年後見人等が契約や手続きなどを代行したり、本人が誤って結んだ契約を取り消したりします。

## 9 自由意見

問 39 その他、介護保険制度全般に関するご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見は 29 件でした。主な意見は以下のとおりです。

回答の概要
運営基準等の解釈について、市の見解やよくある質問と答えについて、口頭でなく文書で配布してほしい。
介護保険制度を利用することで全てを介護保険でまかない、担い補完していく制度ではなく、サポートしていく制度、“自助”の能力を十分に活かすことが基本であることを広く周知していくべきだと感じる。
職員の定着が悪く、人が流れていってしまうのは様々な要因があるけど、ケアマネジャーの資格を取っても現場に残る人が増えているのは、待遇面が大きいのではないかと思う。仕事の割に、給料が安いと、今後、ケアマネジャーが不足していくのではないかと思う。
利用ニーズに対してケアマネジャーが足りない。書類作成等業務削減して欲しい。各ケアマネジャーの個人差があり質の向上等言われるが、AIを導入し均一化図れば良いと思う。
小平市内のケアマネジャーは、事業所のみではなく、施設の中にもケアマネジャーとして働いている方がいるので、施設ケアマネジャーにも勉強できる時間を設けるべき。リ・アセスメント等の勉強の機会は、皆に必要なではないか。
負担割合3割の方が多くなりました。使いたいサービスを控える方もいます。社会資源の充実で、おぎなえるようになればいいと思います。
「これで良かった、小平に住んでいて良かった。」と納得できるような、介護保険制度ではまかなうことの出来ない、小平市ならではのサービスがあると良いと思います。
単身者や身元保証人がいない場合、介護サービスの契約時に、緊急時の対応について聞かれ、苦慮することが多い。こうした利用者は今後更に増えてくることが想定されるため、仕組みやルールを作ってほしいです。
介護保険の居宅サービスの解釈や判断について質問がある時、相談しやすい雰囲気だとありがたいです。
働き方改革がある一方でケアマネジャーに求められる業務は増加している。書類に毎日追われる日々で、高齢者は増えており、多様化したニーズへの対応も大変になってきている。どうにか利用者一人一人の声もしっかり聞ける時間を確保したい。

